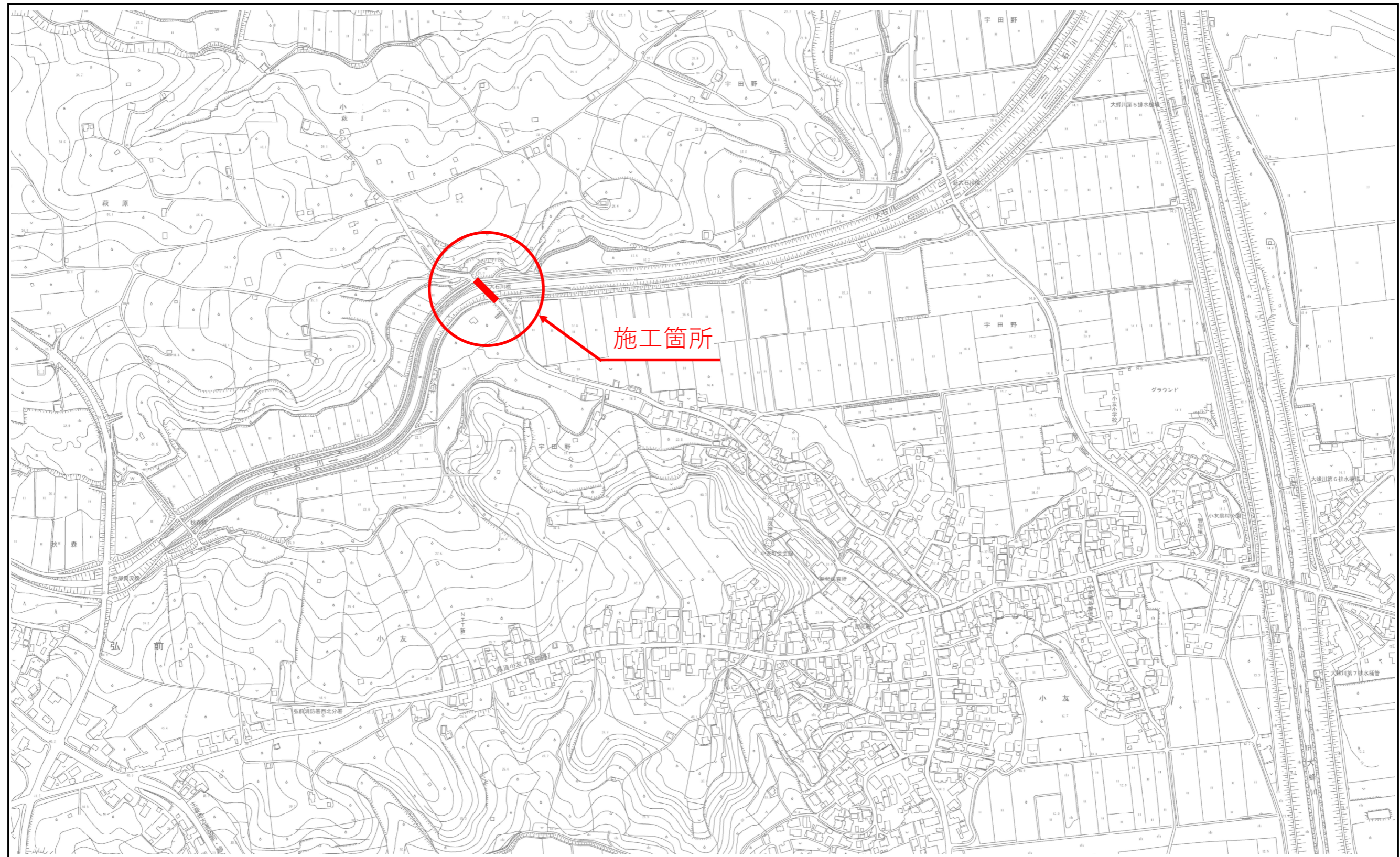
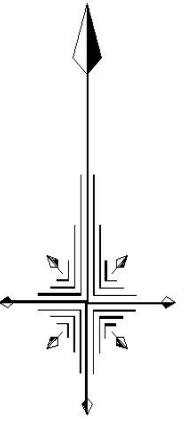


位置図

工事名：令和7年度 大石川橋橋梁補修工事

S = 1 : 5,000

弘前市

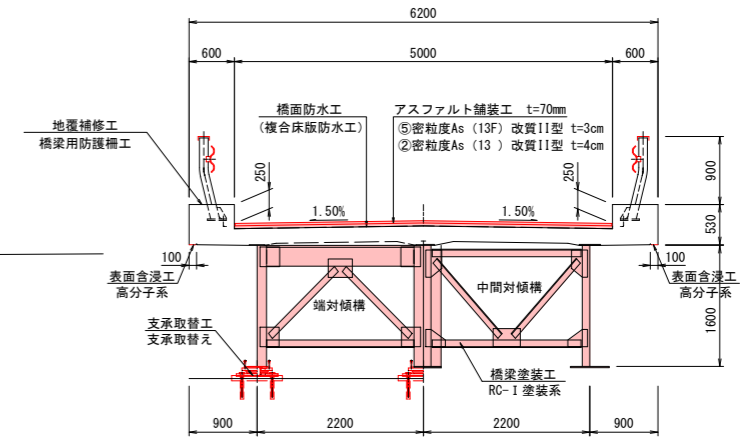
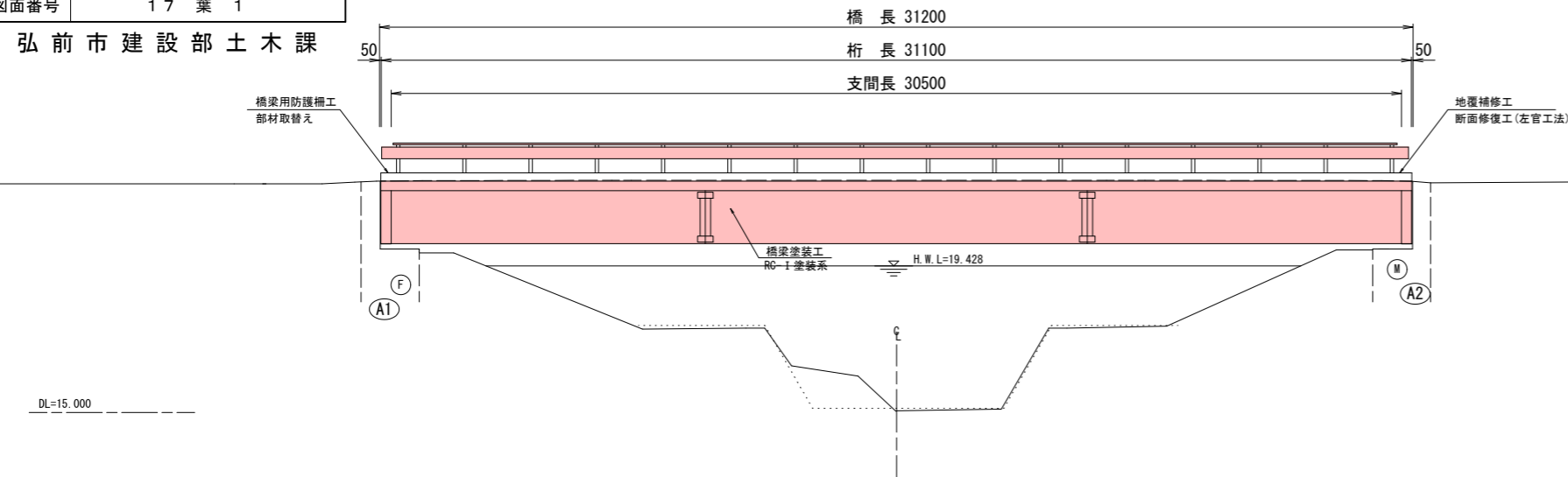


年度	令和8年度
工事名	令和7年度 大石川橋梁補修工事
路線名	市道 小友下向1号線
施工箇所	弘前市大字 貝沢 地内
図面名称	補修一般図
縮尺	図示(A1)
図面番号	17葉1

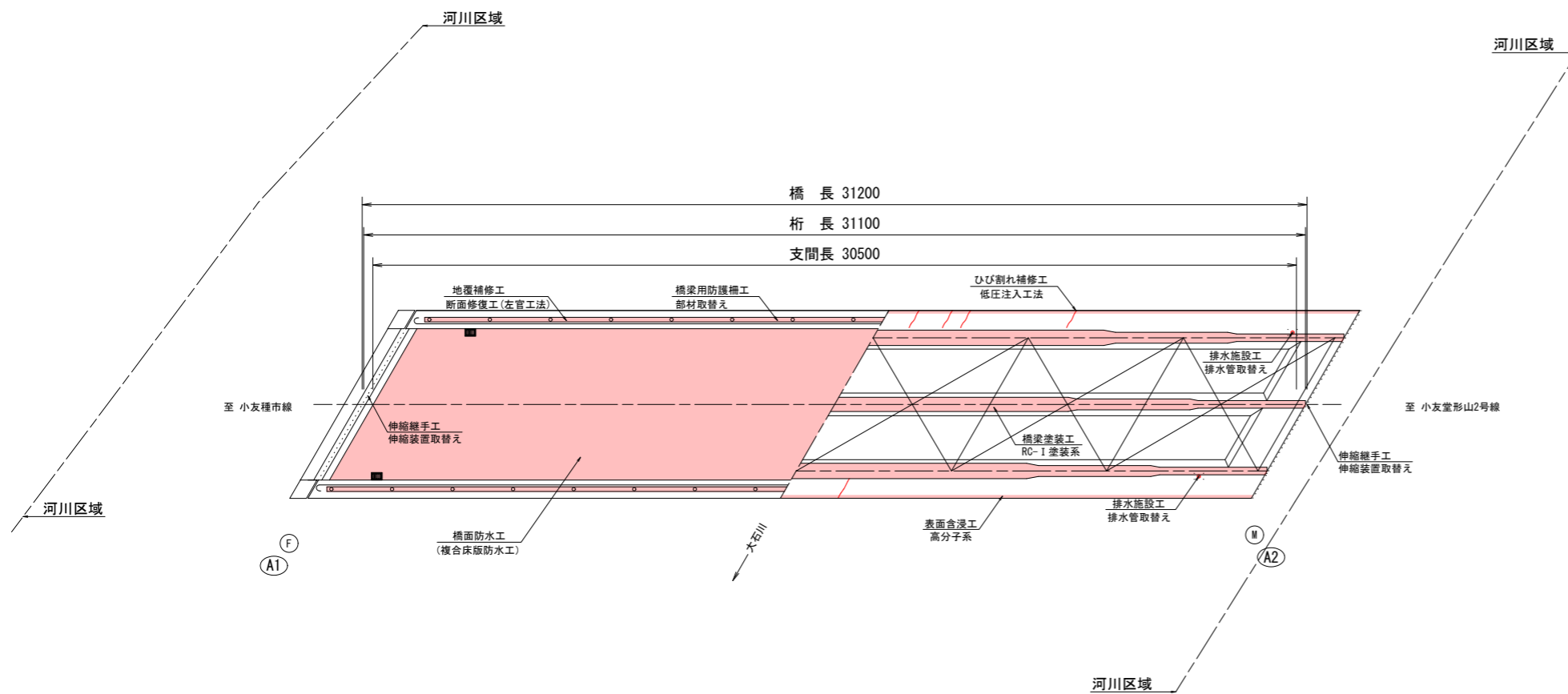
補修一般図

側面図 S=1:100

断面図 S=1:50



平面図 S=1:100



橋梁諸元	
橋梁名	大石川橋
路線名	小友下向1号線
占用河川	大石川
竣功年月	1980年3月 経過年数46年
橋長	31.200m
桁長	31.100m
支間長	30.500m
径間数	1
全幅員	6.200m
幅員(有効幅員)	5.000m
設計荷重・等級	TL-14 (二等橋)
適用示方書	昭和47年 道路橋示方書
斜角	左 60° 00' 00"
舗装工	アスファルト舗装
上部工形式	単純合成版桁橋
下部工形式	逆T式橋台
基礎工形式	鋼管杭 (φ400)

対策工法一覧表

位置	対策工法	
上部工	橋面	橋面防水工(塗膜系複合型防水層)
	主桁	橋梁塗装工(RC-1塗装系)
	床版	ひび割れ補修工(低圧注入工法)、表面含浸工(高分子系浸透性防水材料)
付属物	伸縮装置	伸縮継手工(伸縮装置取替え)
	地覆	断面修復工(左官工法)
	防護柵	橋梁用防護柵工(部材取替え)
	排水装置	排水施設工(排水管取替え)
下部工	支承	支取替工(支取替え)
	胸壁	表面含浸工(高分子系浸透性防水材料)
	橋座	表面含浸工(高分子系浸透性防水材料)

特記事項

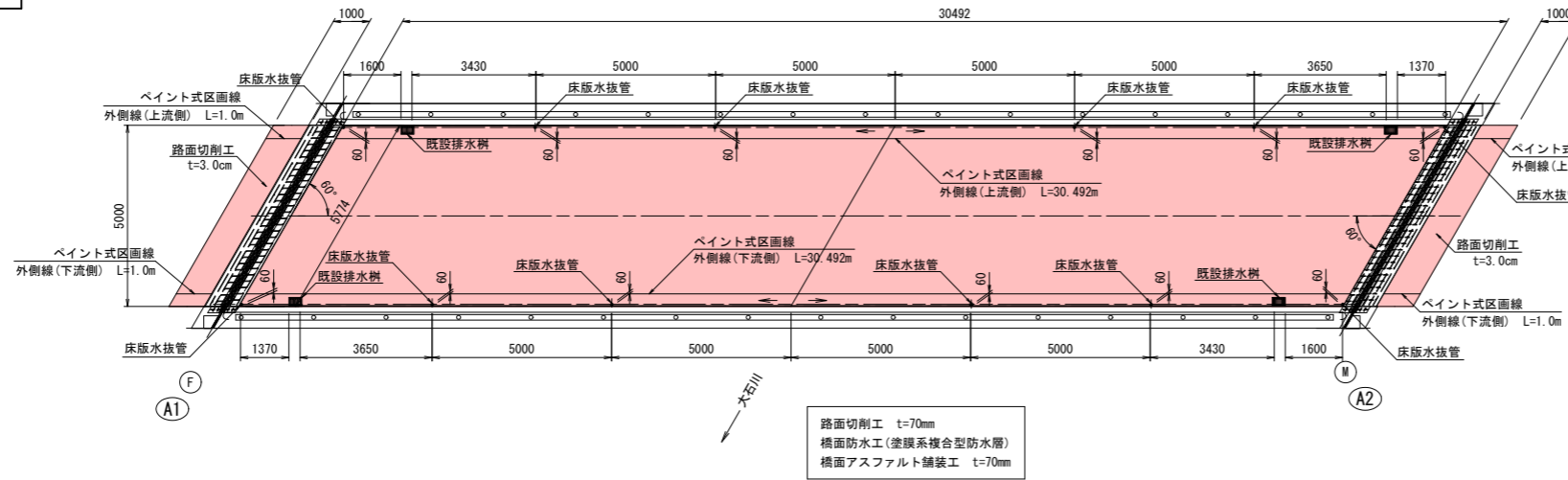
・ 図中詳細寸法は、現地計測によるものである。

年度	令和8年度
工事名	令和7年度 大石川橋梁補修工事
路線名	市道 小友下向1号線
施工箇所	弘前市大字 貝沢 地内
図面名称	橋面防水工図
縮尺	図示(A1)
図面番号	17葉2

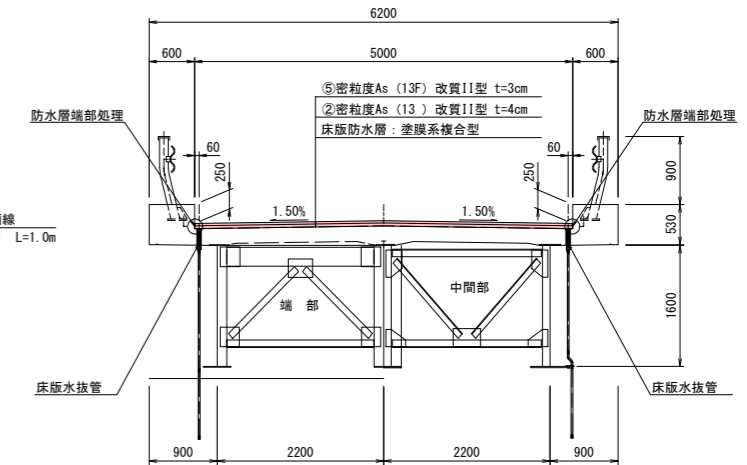
弘前市建設部土木課

橋面防水工図

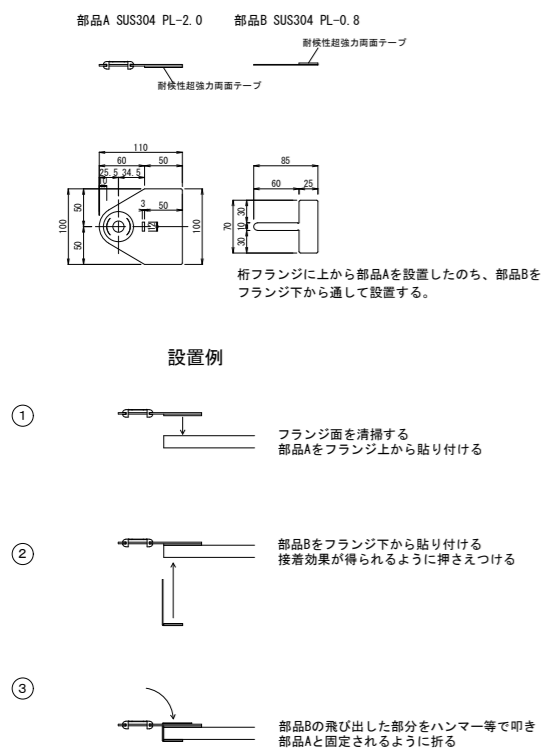
平面図 S=1:100



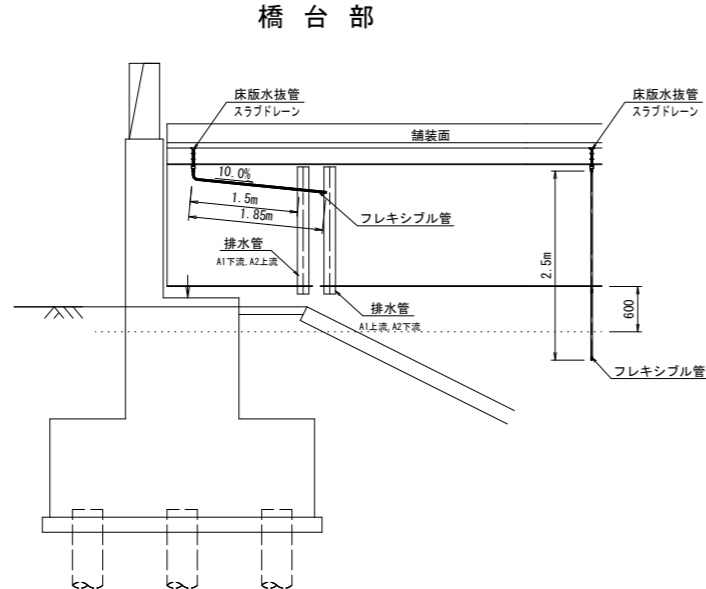
断面図 S=1:50



鋼桁固定用 (フランジ部に固定)

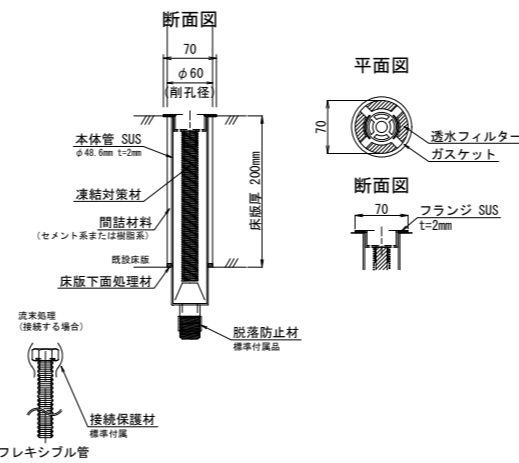


床版水抜取付図 S=1:50



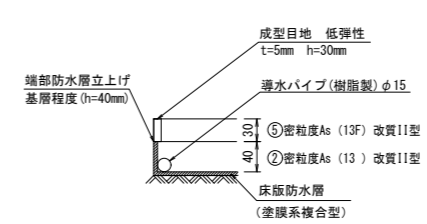
床版水抜管構造図 S=1:5

(参考図)

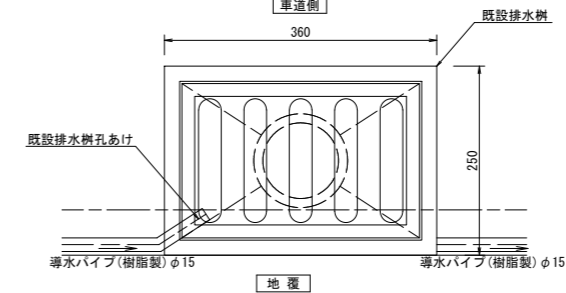


名称	規格・寸法	数量	備考
本体管	SUS 304 φ48.6	1式	
透水フィルター	透水フィルター 暴露対応型	1式	
ガスケット	t=0.5	1式	
凍結対策材	独立気泡発泡内装コイル	1式	
接続保護材	内径収縮率50%以上 L=80	1本	
脱着防止材	ダブルナット方式	1個	
フレキシブル管	SUS 304 φ20	1本	別途

防水層端部処理詳細図 S=1:5



排水柵接続詳細図 S=1:5

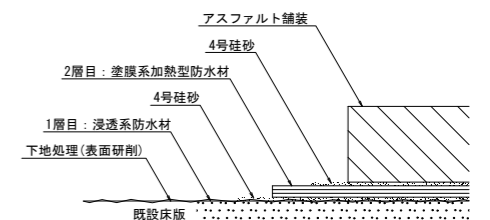


特記事項

1. 図中詳細寸法等は、現地検測のうえ決定すること。
2. 導水パイプ端部(橋台部)は、排水装置に接続すること。
3. 床版上面を点検し、コンクリートの脆弱部及び著しい凹凸については適切に補修を行うこと。
4. 施工後は、アスファルトにより排水機能が阻害されていないことを確認すること。

橋面防水工詳細図 S=Free

塗膜系複合型



特記事項

1. 路面切削時は、既設床版を損傷しないよう留意すること。また、切削後、床版にひび割れ等の脆弱部が確認された場合は、適切に補修すること。
2. 橋面防水層の施工は降雨、強風時を避け、設置時の気温等、施工環境に配慮すること。また、床版の表面が十分に乾燥した状態で、下地処理を行うこと。

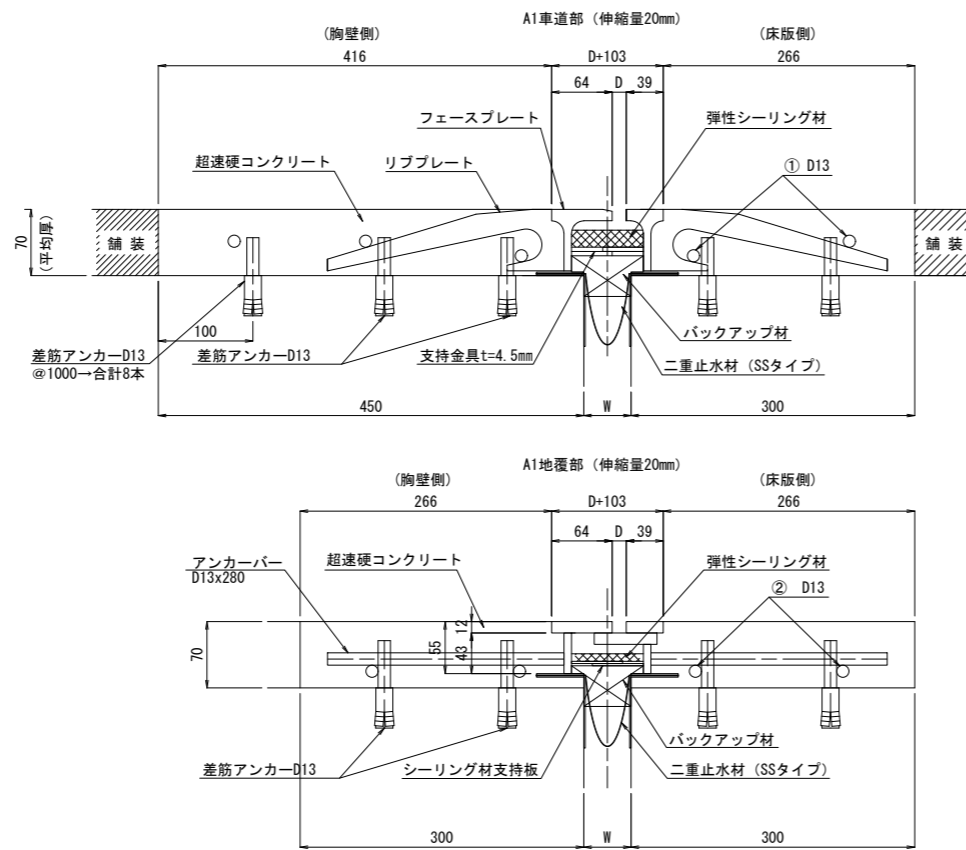
年度	令和8年度
工事名	令和7年度 大石川橋梁補修工事
路線名	市道 小友下向1号線
施工箇所	弘前市大字 貝沢 地内
図面名称	伸縮継手工図(1)
縮尺	図示(A1)
図面番号	17葉3

弘前市建設部土木課

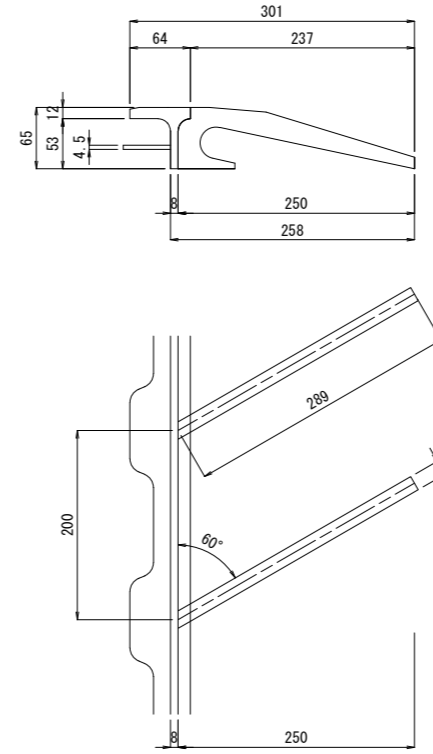
伸縮継手工図(1)

A1

伸縮装置断面図 S=1:4



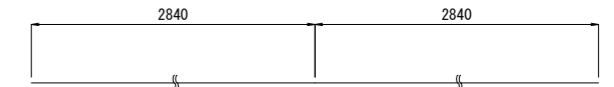
誘導板詳細図 S=1:4



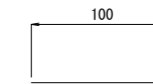
鉄筋表

番号	径	長さ(mm)	本数	単位重量(kg/m)	一本当り重量	重量(kg)	摘要
A1 (1箇所)							
①	D13	2840	10	0.995	2.83	28.3	—
②	D13	100	8	0.995	0.10	0.8	—
					D13 (SD345)	29.1 ≒ 29	kg
					差し筋アンカー D13	128	本

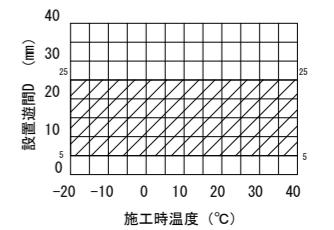
① 10-D13 × 2840



② 8-D13 × 100

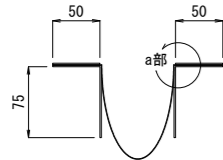


設置遊間表

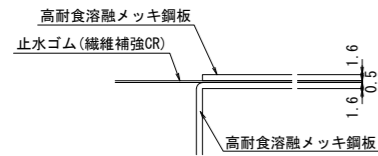


伸縮量: ΔL
 ΔL = 0mm
 (設置表は余裕量を除いた伸縮量とする)

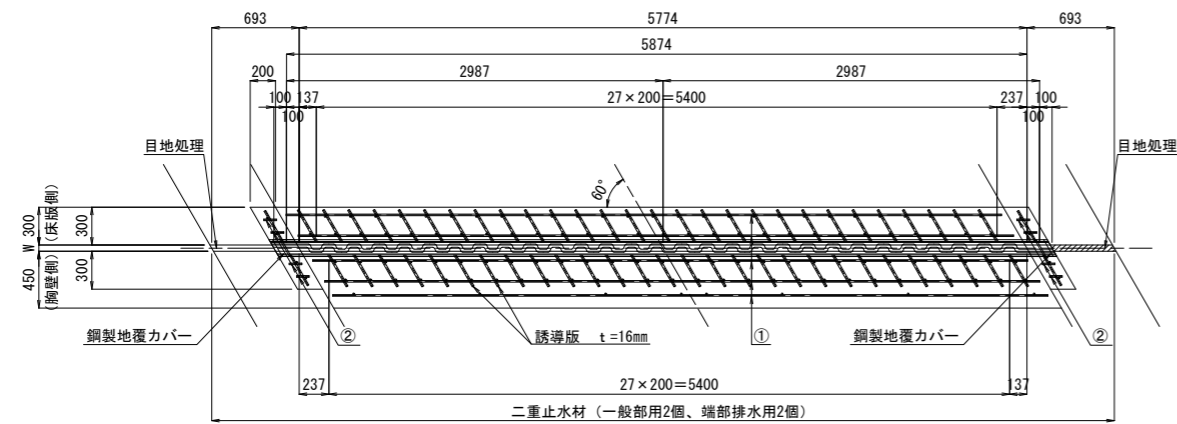
二重止水材詳細図 S=1:4



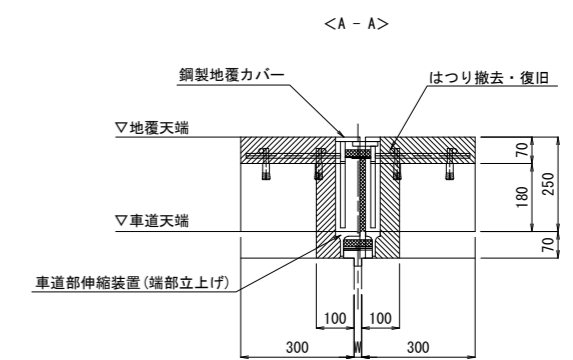
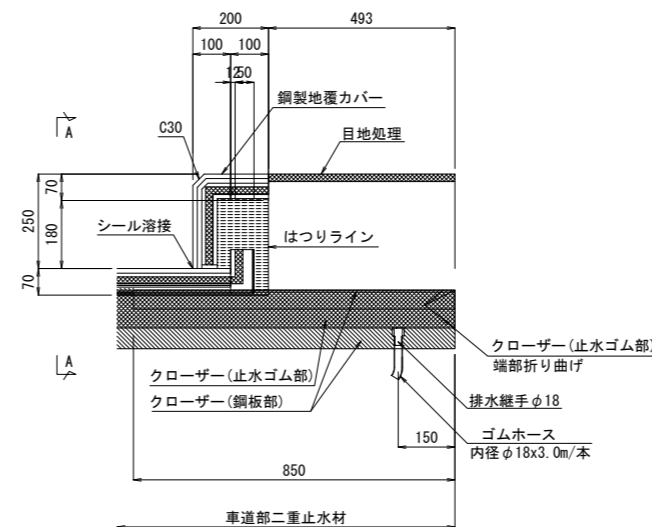
"a"部詳細図



平面配筋図 S=1:30

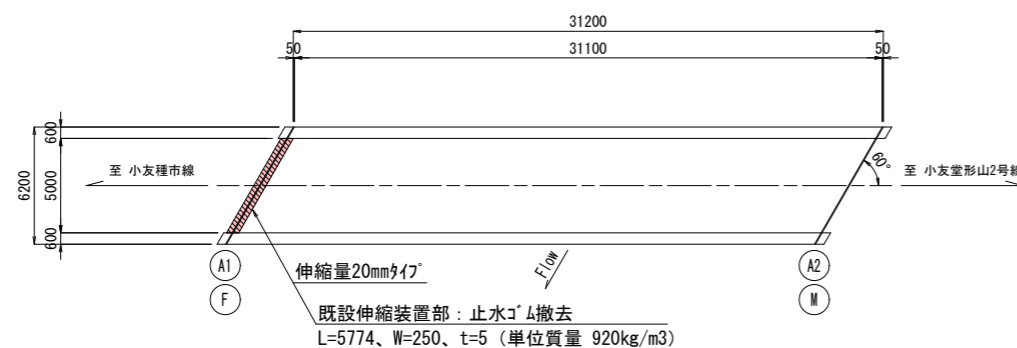


目地処理詳細図 S=1:10

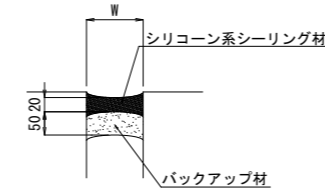


※伸縮装置本体端部を地覆部に埋め込むため製作延長は5874mmとする。

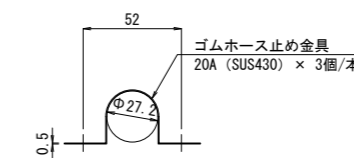
位置図 S=1:200



目地処理断面図



ホース止め金具(例)



※排水ゴムホース設置の有無は足場の設置可否等により決定のこと

注) 1. 施工延長等は現場実測の上決定すること。
 2. 本製品は東北地方整備局 設計施工マニュアル準拠品である。支持金具t=4.5mmとする。

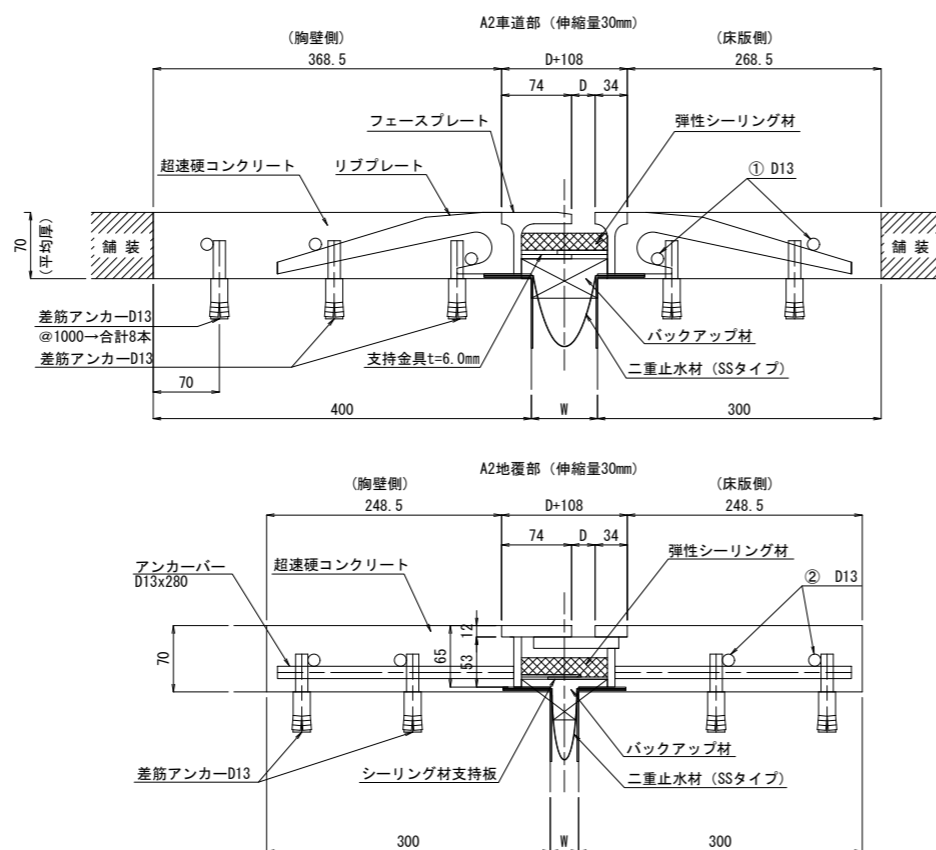
年度	令和8年度
工事名	令和7年度 大石川橋梁補修工事
路線名	市道 小友下向1号線
施工箇所	弘前市大字 貝沢 地内
図面名称	伸縮継手工図(2)
縮尺	図示(A1)
図面番号	17葉4

弘前市建設部土木課

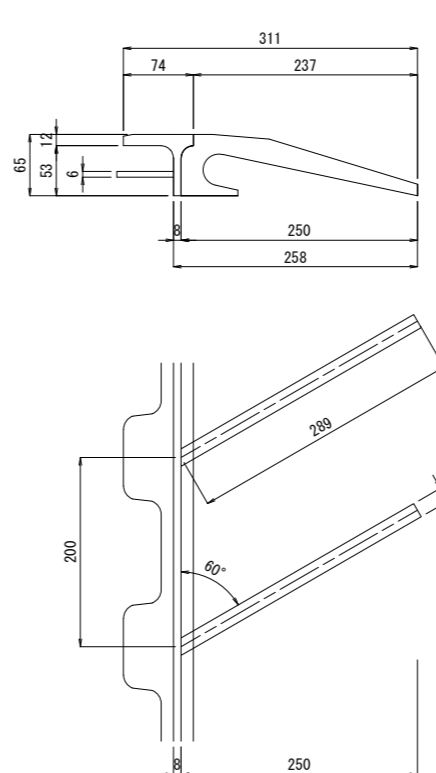
伸縮継手工図(2)

A2

伸縮装置断面図 S=1:4



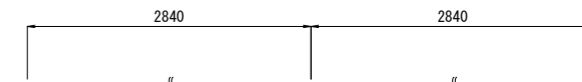
誘導板詳細図 S=1:4



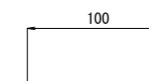
鉄筋表

番号	径	長さ(mm)	本数	単位重量(kg/m)	一本当り重量	重量(kg)	摘要
A2 (1箇所)							
①	D13	2840	10	0.995	2.83	28.3	—
②	D13	100	8	0.995	0.10	0.8	—
					D13 (SD345)	29.1 ≒ 29	kg
					差し筋アンカー D13	128	本

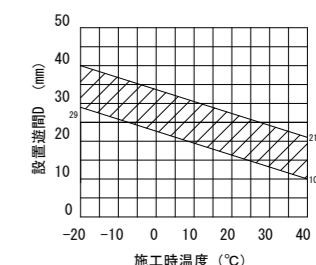
① 10-D13 × 2840



② 8-D13 × 100

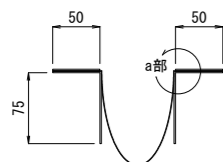


設置遊間表

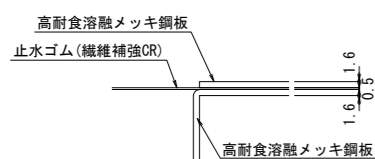


伸縮量: ΔL
 $\Delta L = 0.72 \times L \times \sin\theta + \text{余裕量}$
 $= 0.72 \times 31.10 \times \sin 60^\circ + 10$
 $= 29\text{mm}$
 (設置表は余裕量を除いた伸縮量とする)

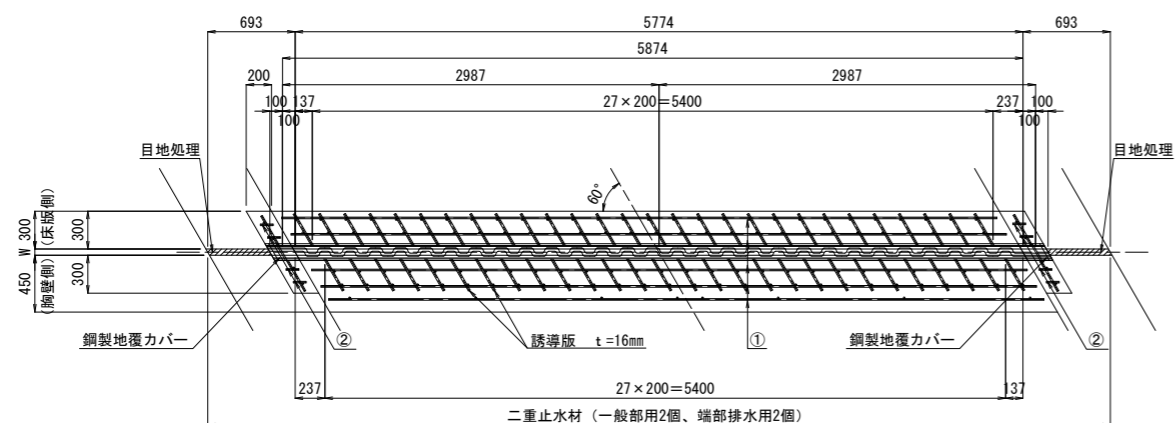
二重止水材詳細図 S=1:4



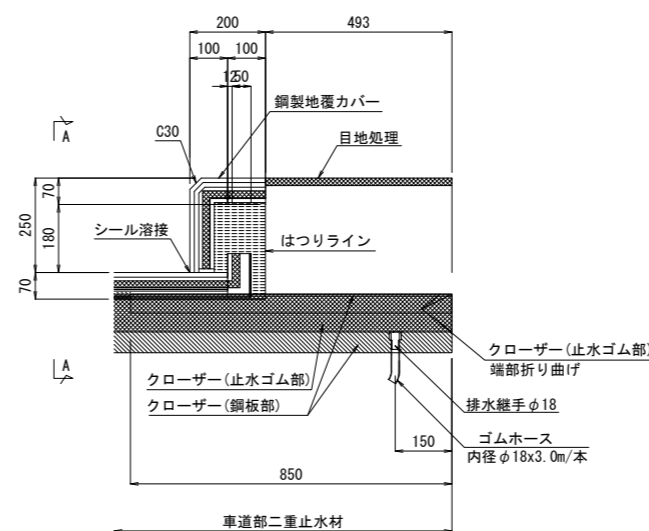
"a"部詳細図



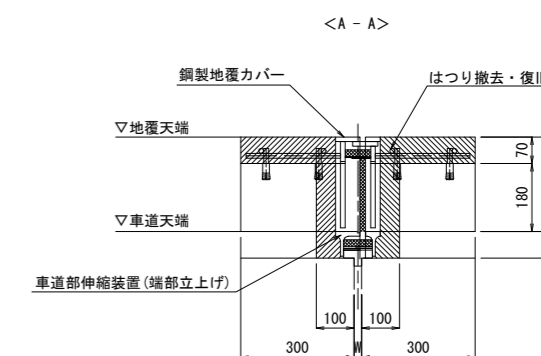
平面配筋図 S=1:30



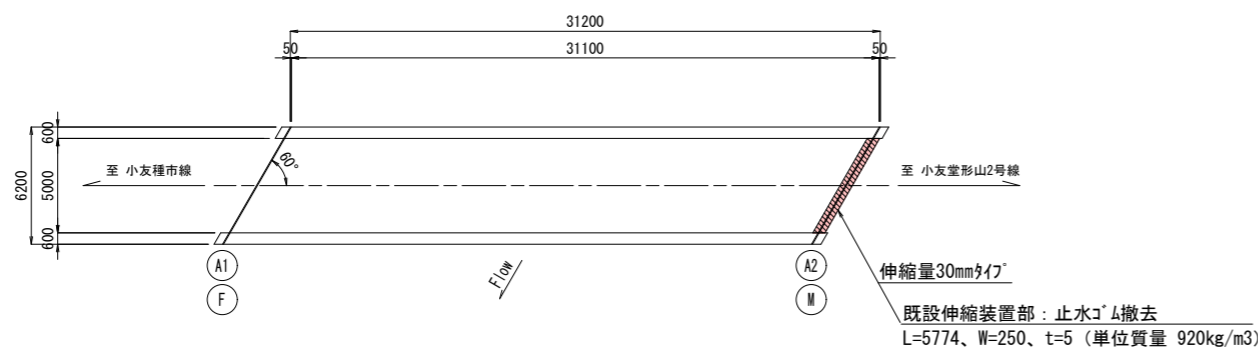
目地処理詳細図 S=1:10



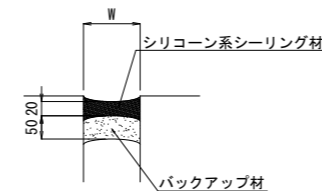
※伸縮装置本体端部を地覆部に埋め込むため製作延長は5874mmとする。



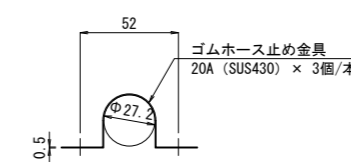
位置図 S=1:200



目地処理断面図



ホース止め金具(例)



※排水ゴムホース設置の有無は足場の設置可否等により決定のこと

注) 1. 施工延長等は現場実測の上決定すること。
 2. 本製品は東北地方整備局 設計施工マニュアル準拠品である。
 支持金具t=6.0mmとする。

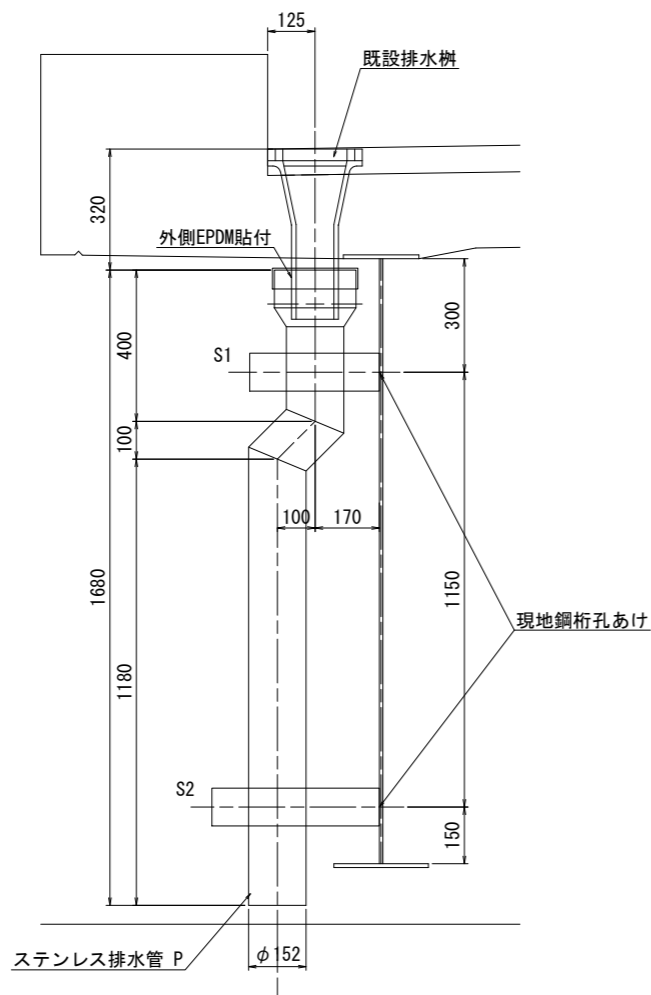
年度	令和8年度
工事名	令和7年度 大石川橋橋梁補修工事
路線名	市道 小友下向1号線
施工箇所	弘前市大字 貝沢 地内
図面名称	排水施設工図
縮尺	図示(A1)
図面番号	17葉5

弘前市建設部土木課

排水施設工図

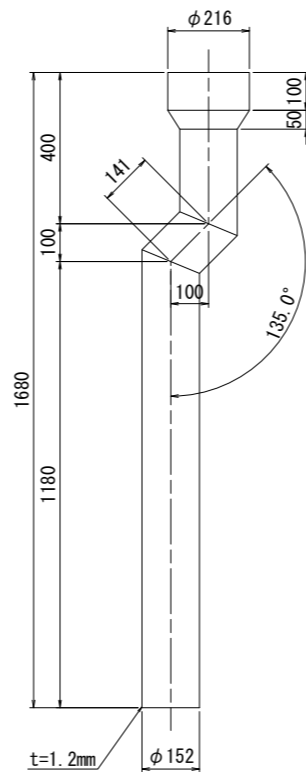
補修図 S=1:10

TS-PIPE



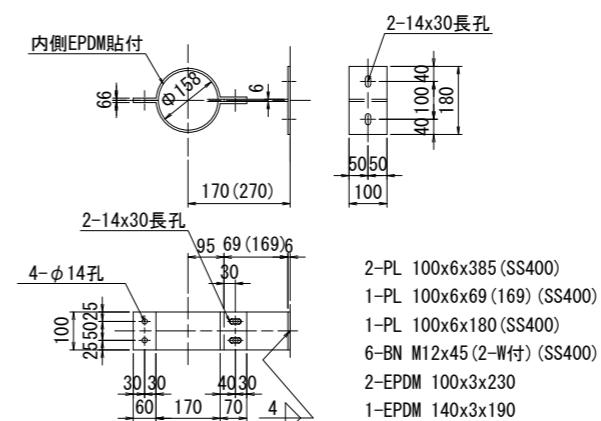
高気密ステンレス排水管詳細図 S=1:10

ステンレス排水管詳細 TS-PIPE
P 製作数:4



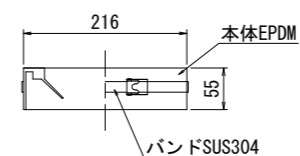
取付金具詳細 S=1:10

S1(S2) 製作数:各4



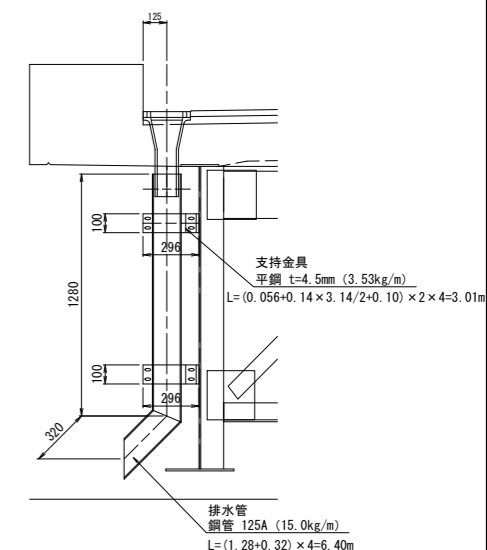
樹接続継手詳細 S=1:5

RD 製作数=4

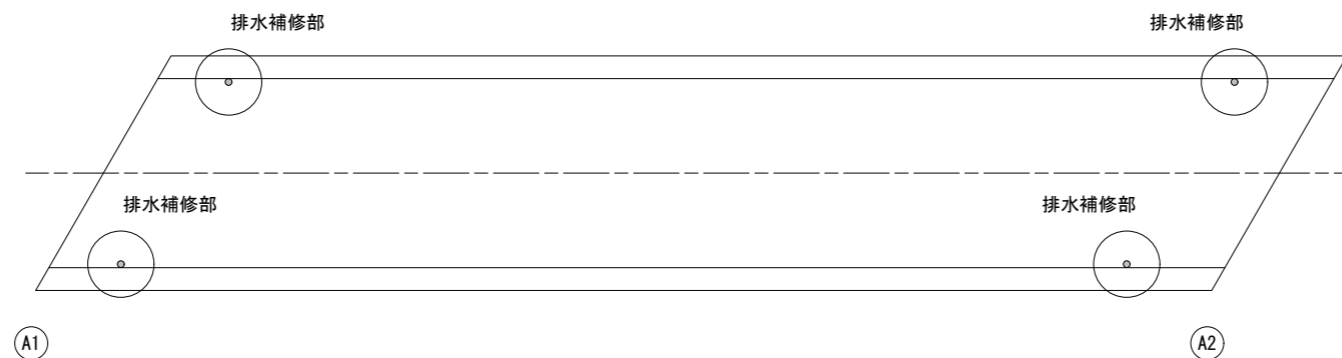


排水管撤去詳細図 S=1:20

既設排水管 125A



全体図 S=1:100



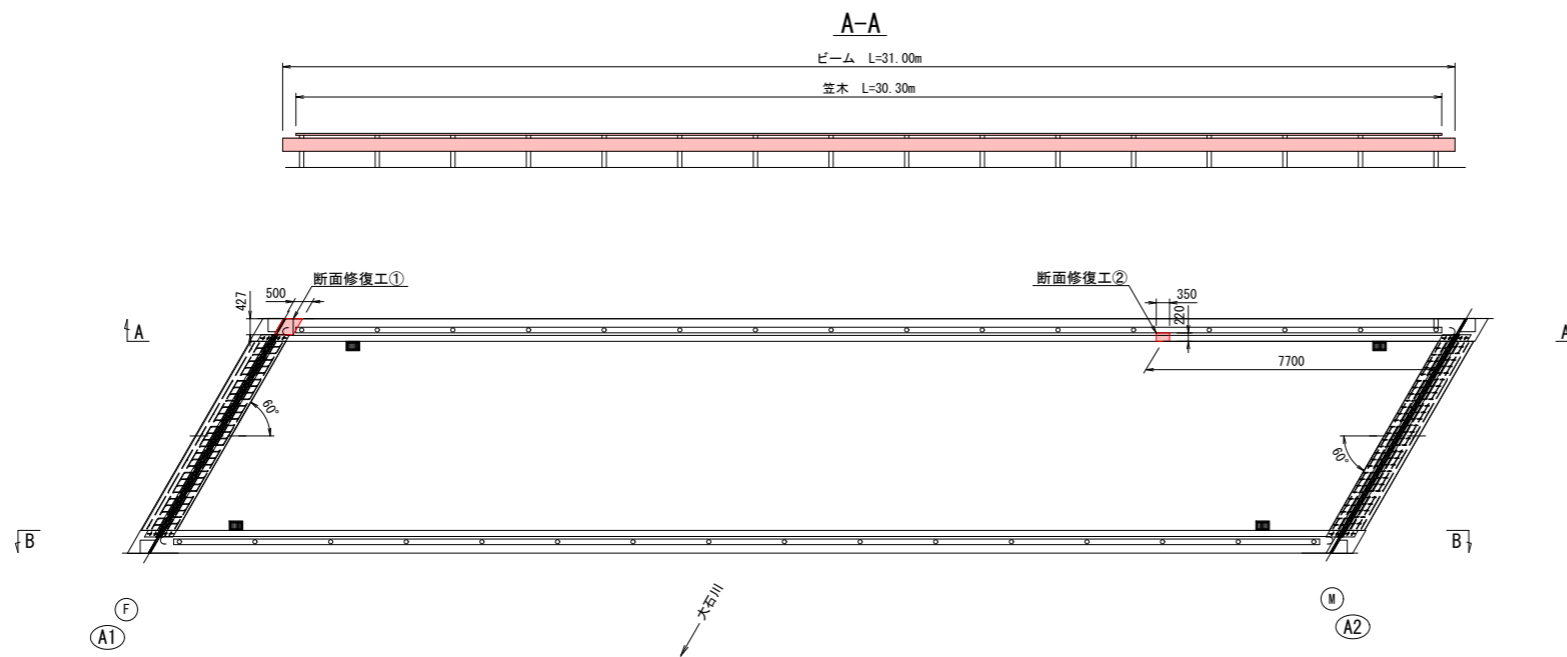
1. 特記なき材質はすべてSUS304とする。
2. 排水装置はTSステンレス排水装置に準ずる。
3. SS400は全て溶融亜鉛メッキ (JIS H 8641 HDZT77) 仕上げを行う。但し、ボルト類はHDZT49とする。
4. t=2.0未満のステンレス鋼材溶接部内外面に対し耐食性向上の措置を講じる。
5. 現地調査にて寸法確定後製作する。

年度	令和8年度
工事名	令和7年度 大石川橋梁補修工事
路線名	市道 小友下向1号線
施工箇所	弘前市大字 貝沢 地内
図面名称	地覆補修工及び橋梁用防護柵工図
縮尺	図示(A1)
図面番号	17葉6

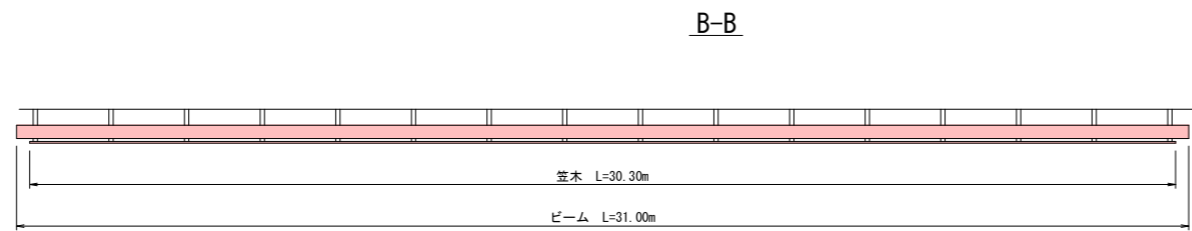
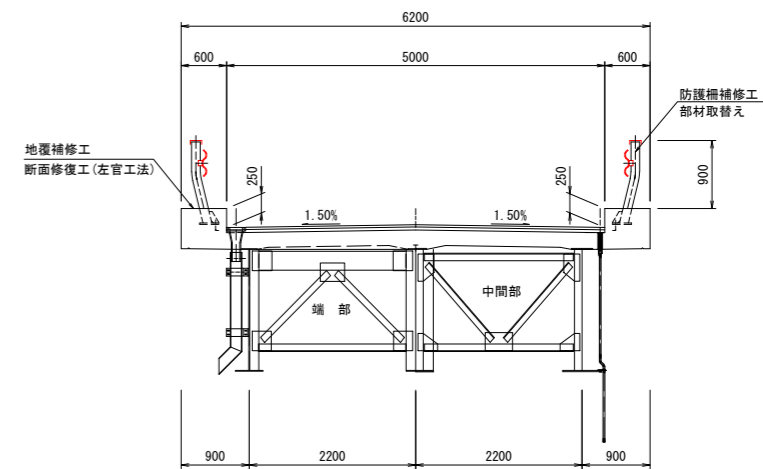
弘前市建設部土木課

地覆補修工及び橋梁用防護柵工図

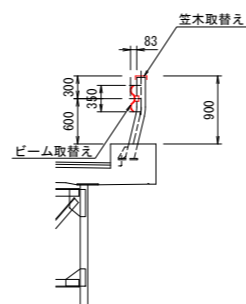
平面図 S=1:100



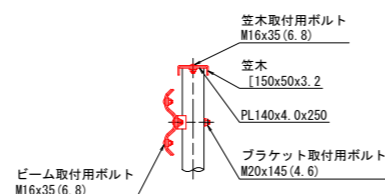
断面図 S=1:50



断面図 S=1:50

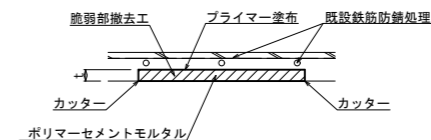


取付詳細図 S=1:20



断面修復工詳細図 S=1:10

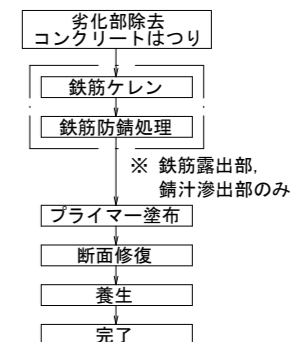
左官工法



<特記事項>

- ※1 脆弱部撤去工(はつり取り)について、健全部に損傷を与えないよう周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、鉄筋発錆部は鉄筋背面までとし、それ以外は表面劣化部の除去とする。
- ※2 断面修復工の材質は『ポリマーセメントモルタル』とし、「表面保護工法設計施工指針(案) [工法別マニュアル編]平成17年土木学会」に示す断面修復材の規格を満足するものとする。
- ※3 鉄筋露出部については、防錆処理等を施すこと。
- ※4 詳細寸法等は現地再検測の上決定すること。

断面修復工フロー



断面修復工集計表(左官工法)

位置	幅 (mm)	延長 (mm)	深さ(t) (mm)	面積 (m ²)	体積 (m ³)	摘要
①	427	500	70	0.214	0.015	防錆処理工
②	220	350	50	0.077	0.004	防錆処理工
合計				0.291	0.019	

年度	令和8年度
工事名	令和7年度 大石川橋梁補修工事
路線名	市道 小友下向1号線
施工箇所	弘前市大字 貝沢 地内
図面名称	支承受替工図(2)
縮尺	図示(A1)
図面番号	17葉8

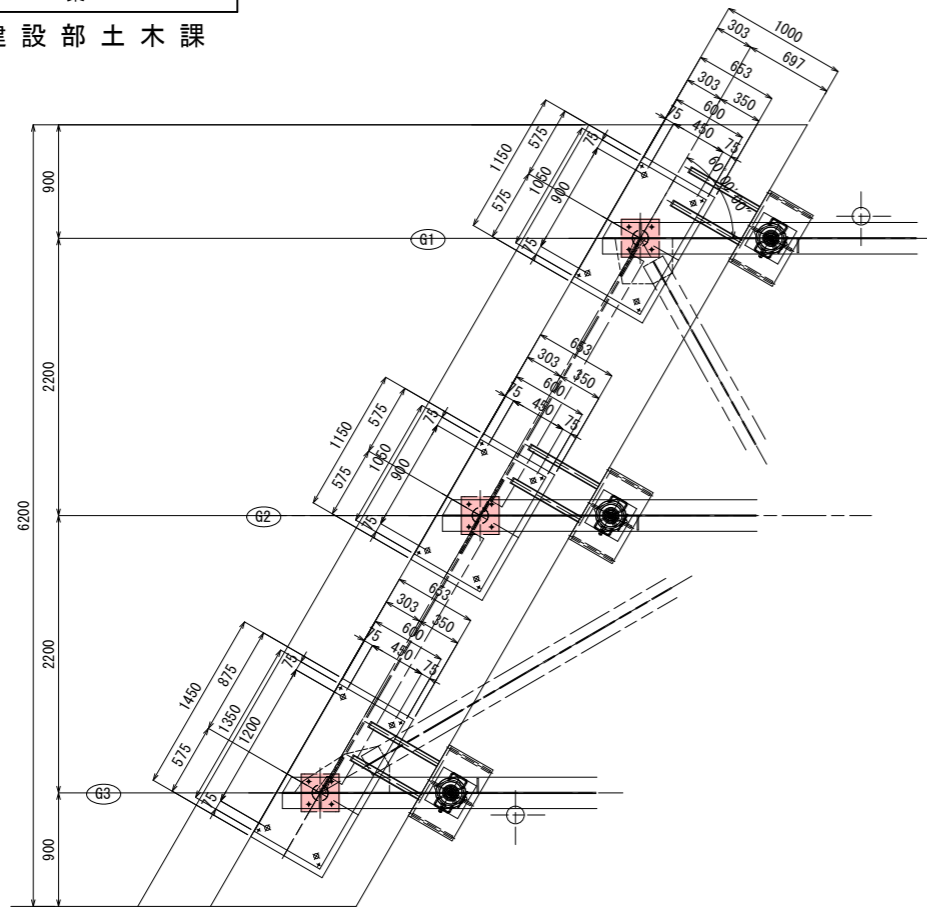
弘前市建設部土木課

支承受替工図(2)

A1橋台上

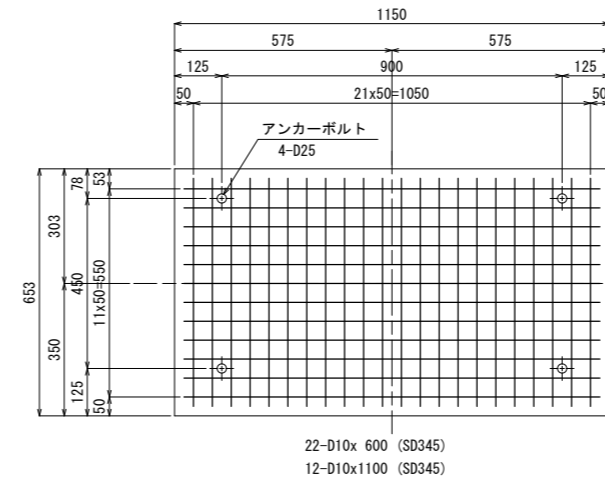
新設支承設置図 S=1:30

平面図

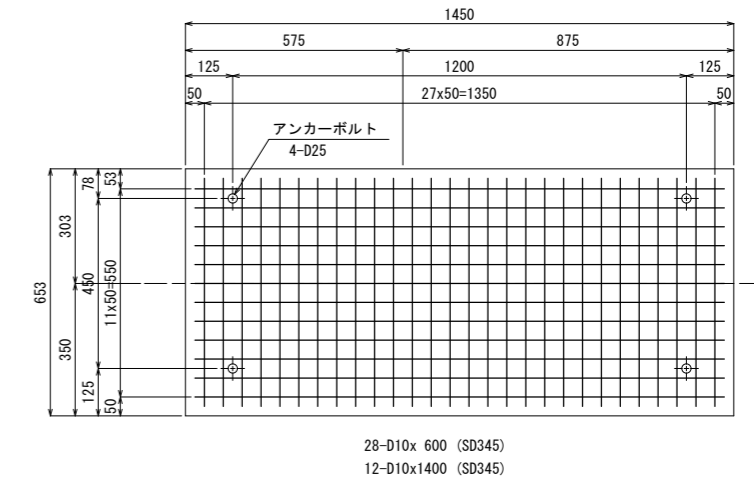


沓座補強鉄筋配筋図 S=1:10

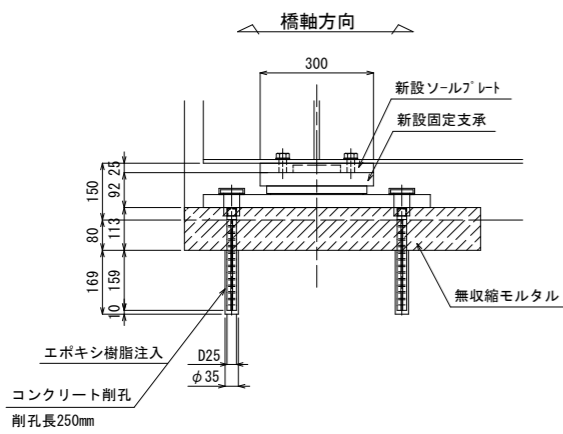
G1, G2桁



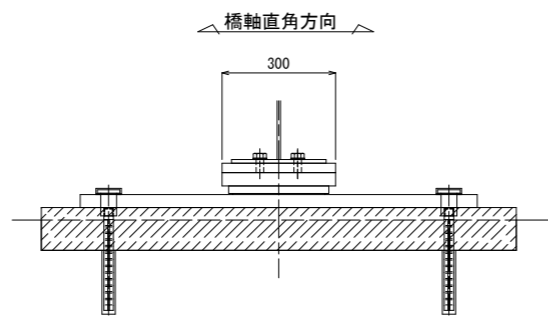
G3桁



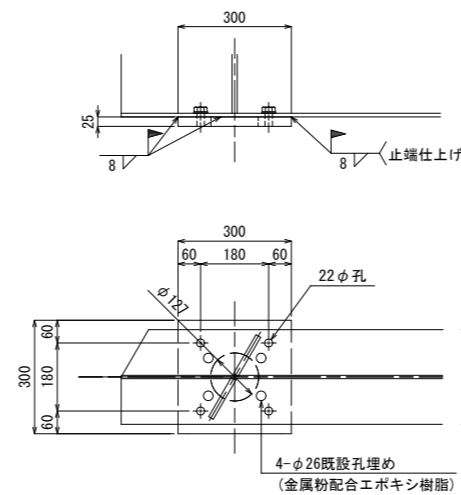
側面図



断面図



沓座補強鉄筋配筋図 S=1:10



1-SOLE PL 300x25x300

溶接部塗装仕様
F-13 塗装系

現場塗装面積(溶接部)
FLG面 A=0.250x0.300x1面x3=0.23m²

塗装工程	塗料名	塗装方法	使用量 (g/m ²)	目標膜厚 (μm)	塗装間隔
素地調整	2種ケレン				4時間以内
防食下地	有機ジンクリッチ ペイント	スプレー (はけ・ローラー)	600 (300x2)	75	1日~10日
下塗り	変性エポキシ樹脂 塗料下塗	スプレー (はけ・ローラー)	240 (200)	60	1日~10日
下塗り	変性エポキシ樹脂 塗料下塗	スプレー (はけ・ローラー)	240 (200)	60	1日~10日
中塗り	ふっ素樹脂塗料用 中塗	スプレー (はけ・ローラー)	170 (140)	30	1日~10日
上塗り	ふっ素樹脂塗料上塗	スプレー (はけ・ローラー)	140 (120)	25	1日~10日

1. 橋体工塗装仕様は、鋼道路橋防食便覧(平成26年3月)に準拠し表のとおりとする。
2. 通常、素地調整は「プラスト処理 ISO Sa 2 1/2」となるが、小規模となるため2種ケレン相当とする。

注)

- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
- 部材取付位置は現地調査の上最終決定のこと。

年度	令和8年度
工事名	令和7年度 大石川橋梁補修工事
路線名	市道 小友下向1号線
施工箇所	弘前市大字 貝沢 地内
図面名称	支承取替工図(3)
縮尺	図示(A1)
図面番号	17葉9

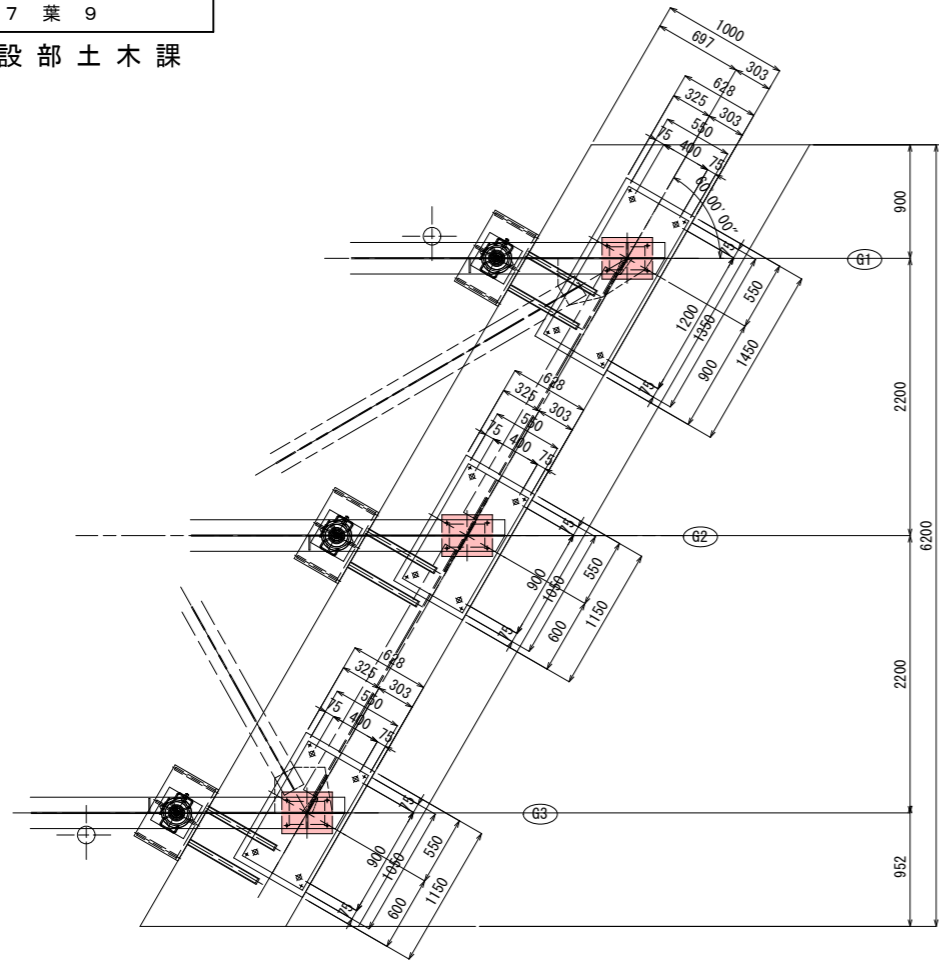
弘前市建設部土木課

支承取替工図(3)

A2橋台上

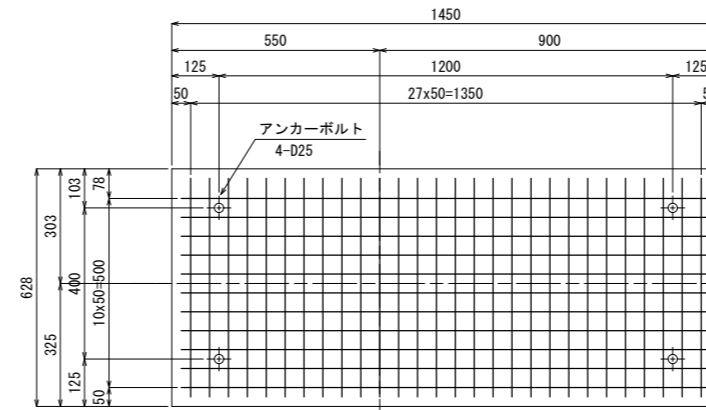
新設支承設置図 S=1:30

平面図

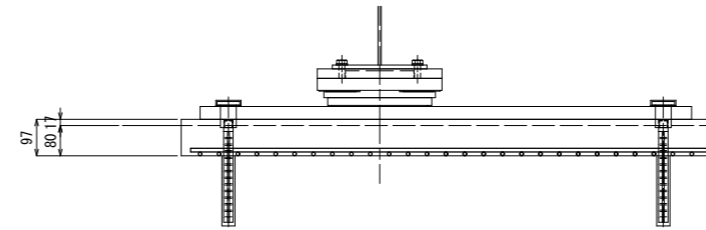


沓座補強鉄筋配筋図 S=1:10

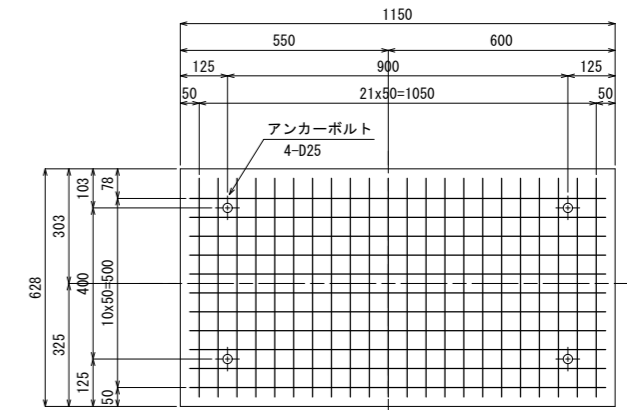
G1桁



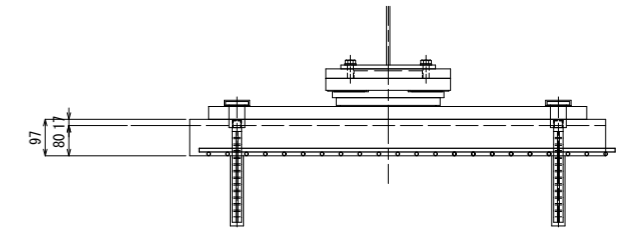
28-D10x580 (SD345)
11-D10x1400 (SD345)



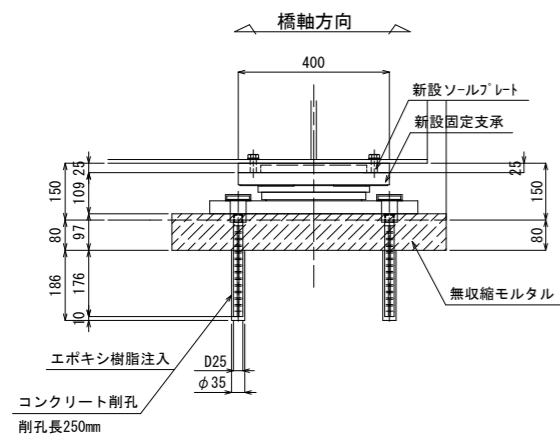
G2, G3桁



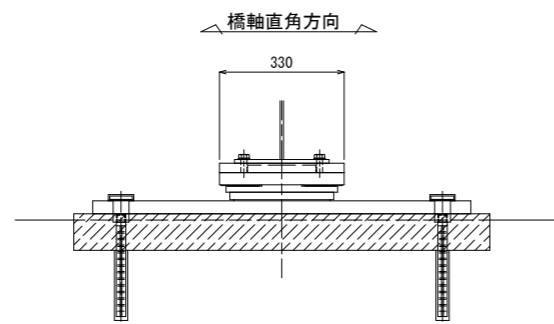
22-D10x580 (SD345)
11-D10x1100 (SD345)



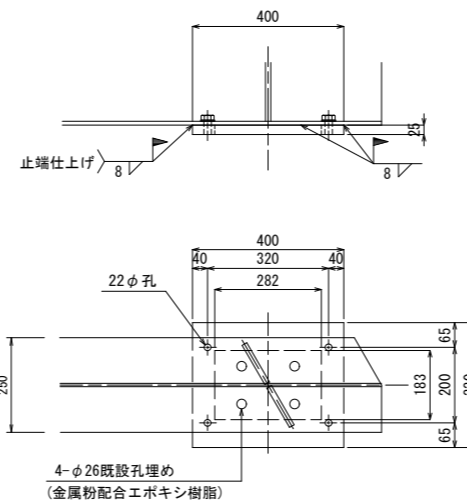
側面図



断面図



沓座補強鉄筋配筋図 S=1:10



1-SOLE PL 330x25x400

溶接部塗装仕様 F-13 塗装系

現場塗装面積(溶接部)
FLG面 A=0.250x0.400x1面x3=0.30m²

塗装工程	塗料名	塗装方法	使用量 (g/m ²)	目標膜厚 (μm)	塗装間隔
素地調整	2種ケレン				4時間以内
防食下地	有機ジンクリッチ ペイント	スプレー (はけ・ローラー)	600 (300x2)	75	1日~10日
下塗り	変性エポキシ樹脂 塗料下塗り	スプレー (はけ・ローラー)	240 (200)	60	1日~10日
下塗り	変性エポキシ樹脂 塗料下塗り	スプレー (はけ・ローラー)	240 (200)	60	1日~10日
中塗り	ふっ素樹脂塗料用 中塗り	スプレー (はけ・ローラー)	170 (140)	30	1日~10日
上塗り	ふっ素樹脂塗料上塗り	スプレー (はけ・ローラー)	140 (120)	25	1日~10日

1. 橋体塗装仕様は、鋼道路橋防食便覧(平成26年3月)に準拠し表のとおりとする。
2. 通常、素地調整は「プラスト処理 ISO Sa 2 1/2」となるが、小規模となるため2種ケレン相当とする。

- 注)
- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 - 部材取付位置は現地調査の上最終決定のこと。

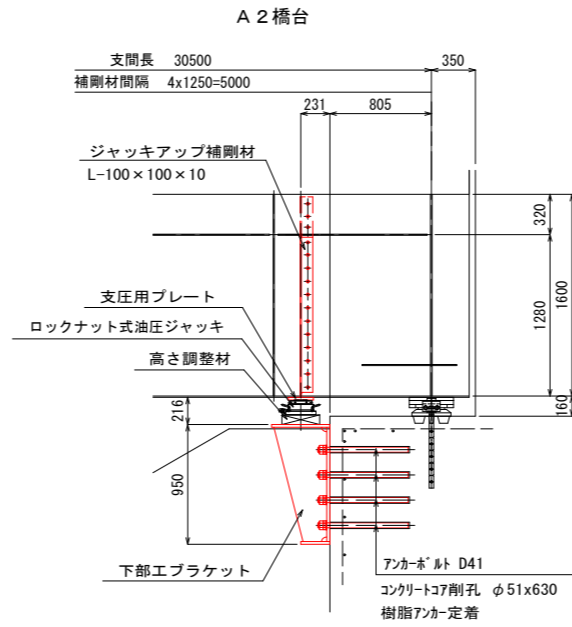
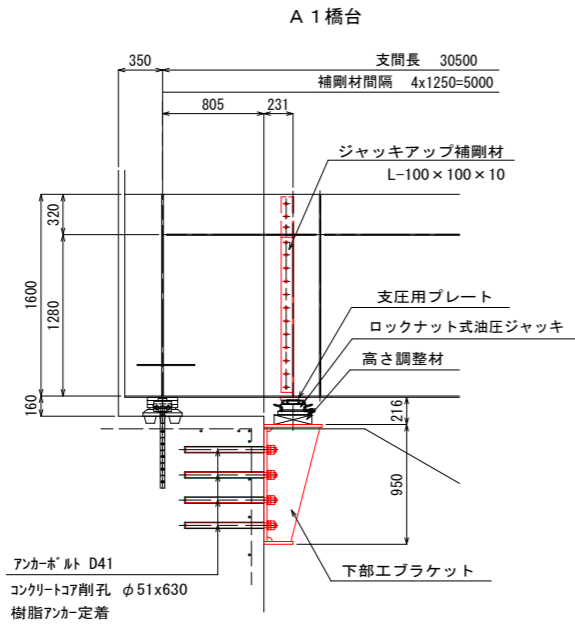
年度	令和8年度
工事名	令和7年度 大石川橋梁補修工事
路線名	市道 小友下向1号線
施工箇所	弘前市大字 貝沢 地内
図面名称	仮受け工詳細図(1)
縮尺	図示(A1)
図面番号	17葉10

弘前市建設部土木課

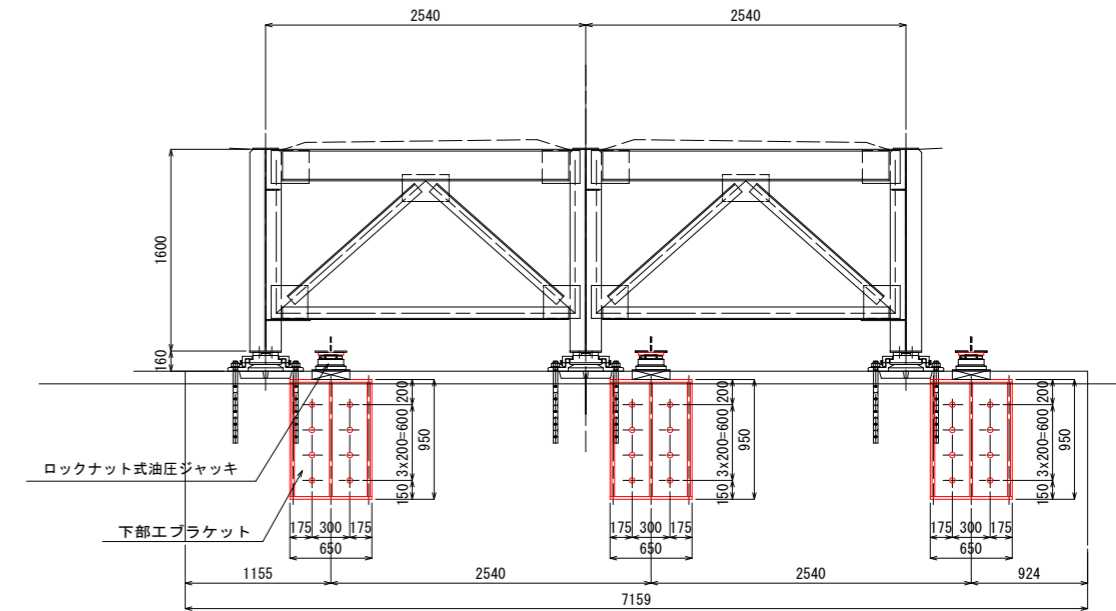
仮受け工詳細図(1)

仮受け工配置図

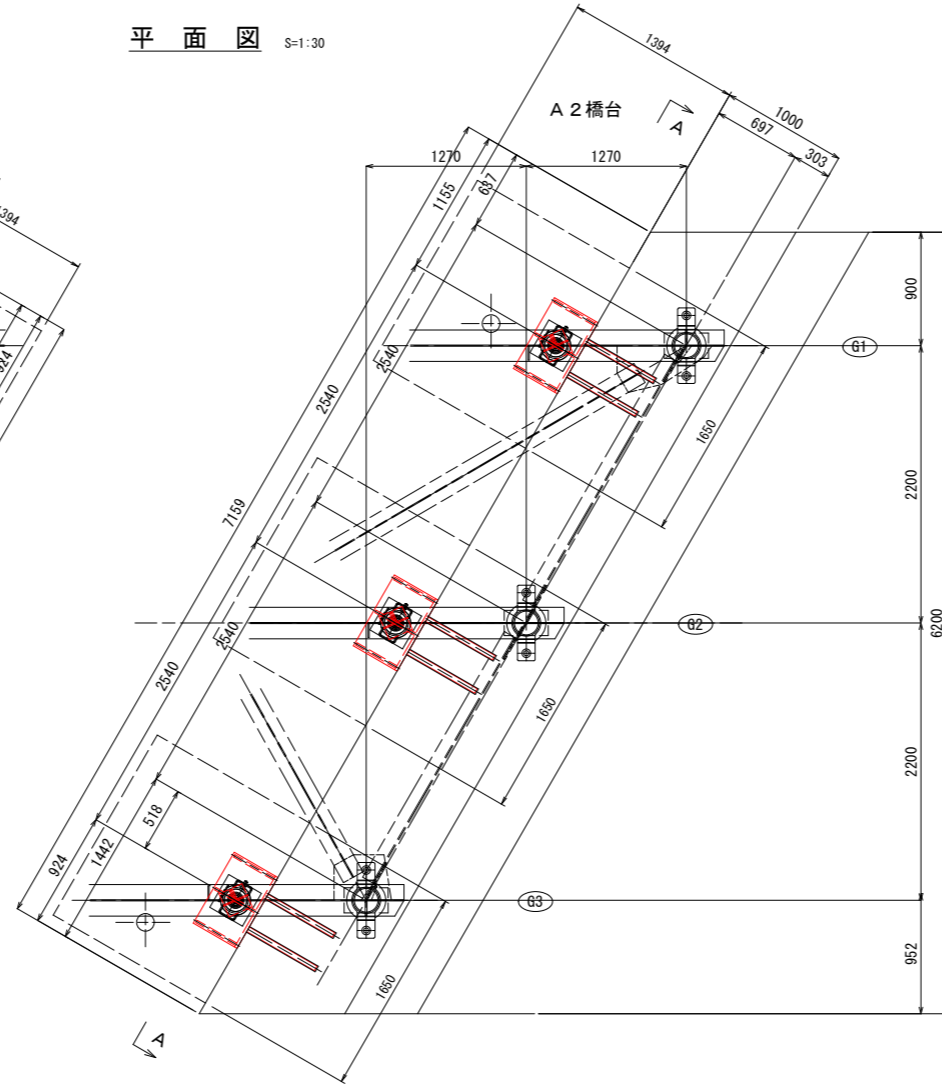
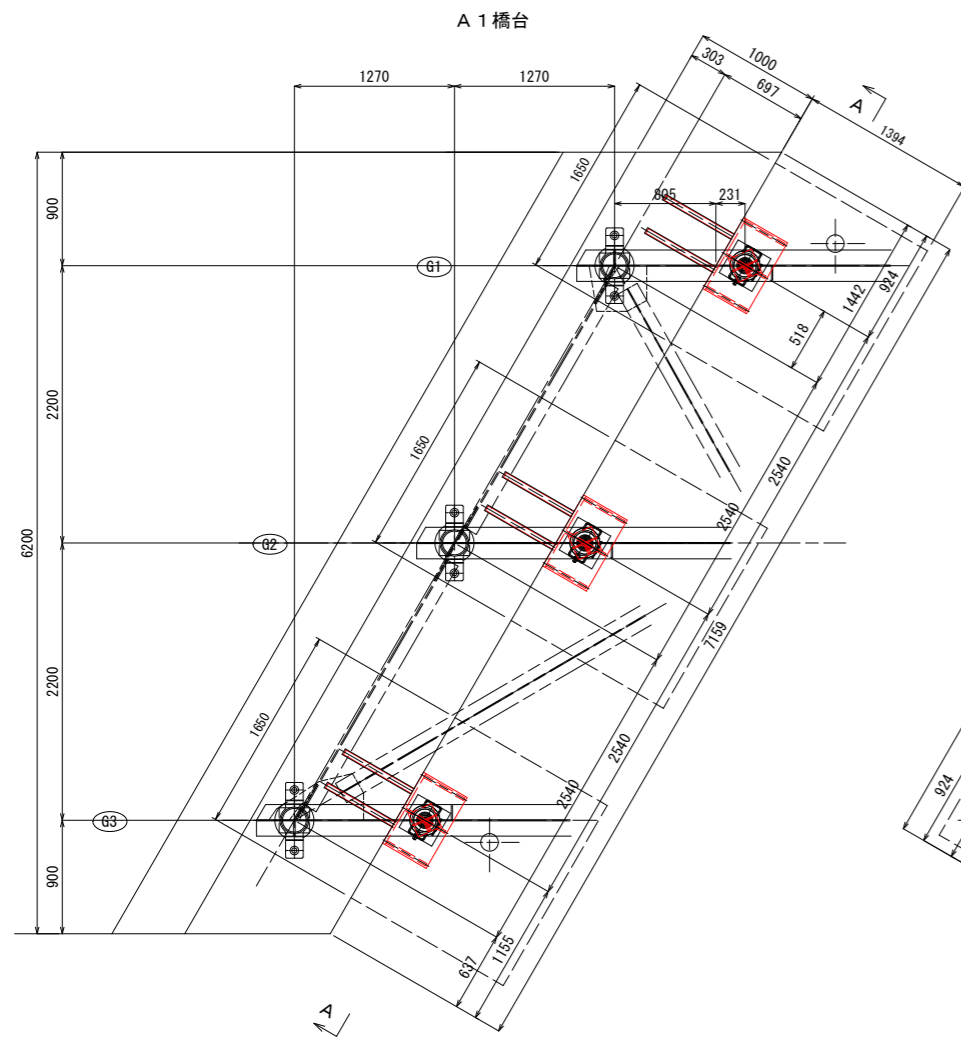
側面図 S=1:30



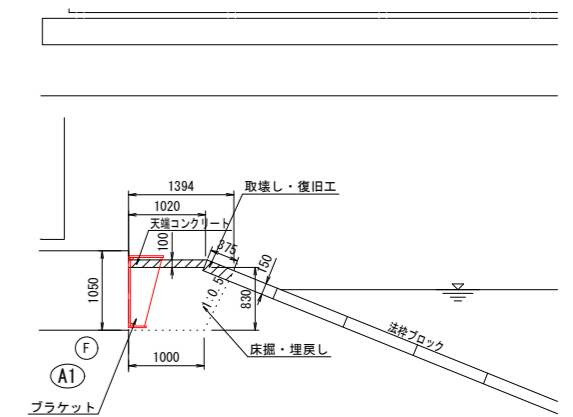
断面図 S=1:30



平面図 S=1:30



仮受け工設置検討図 S=1:50



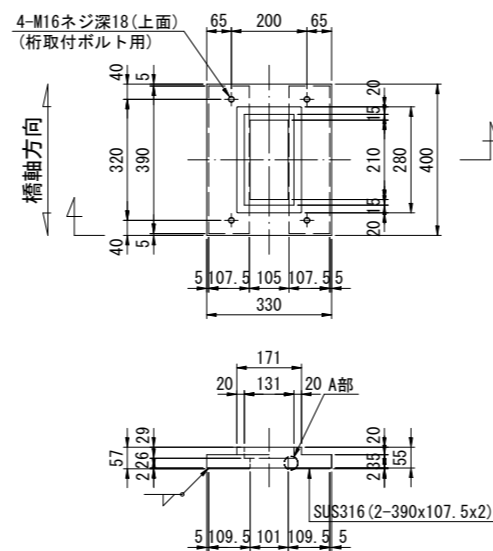
年度	令和8年度
工事名	令和7年度 大石川橋梁補修工事
路線名	市道 小友下向1号線
施工箇所	弘前市大字 貝沢 地内
図面名称	支承詳細図(2)
縮尺	図示(A1)
図面番号	17葉13

弘前市建設部土木課

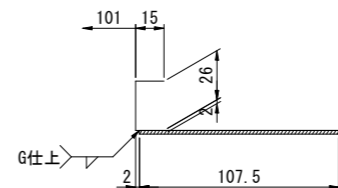
支承詳細図(2)

(A2) 可動ゴム支承

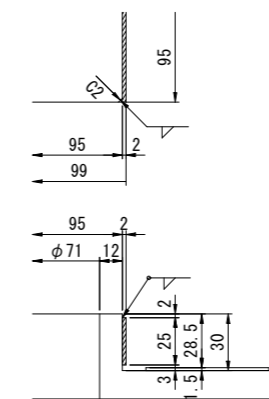
② 上沓 S=1:10



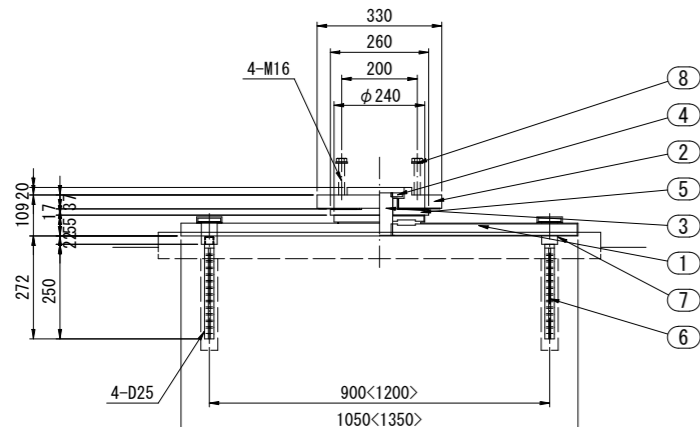
A部詳細図 S=1:2



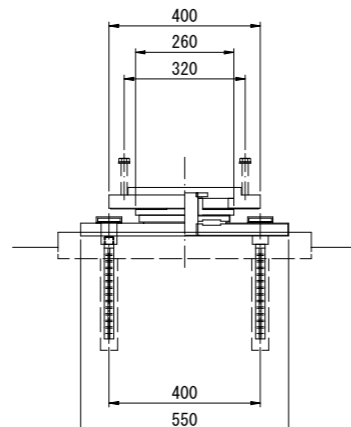
B部詳細図 S=1:2



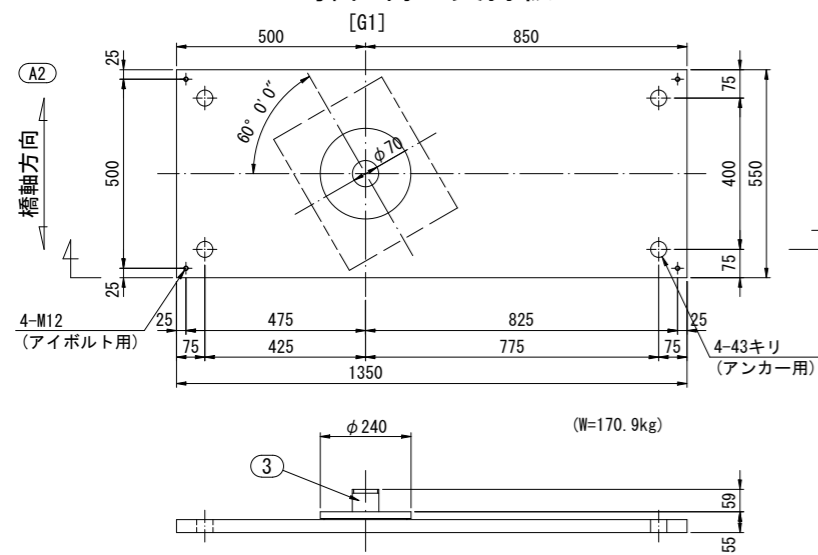
断面図 S=1:10 (橋軸直角方向)



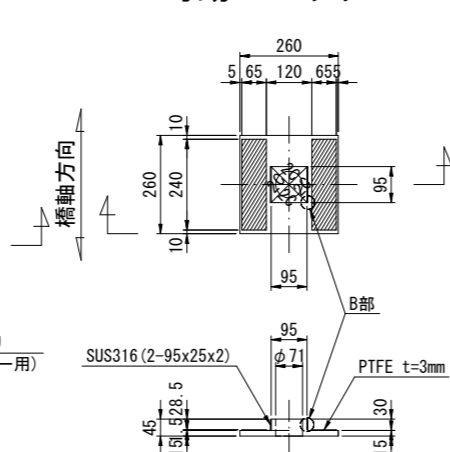
側面図 S=1:10 (橋軸方向)



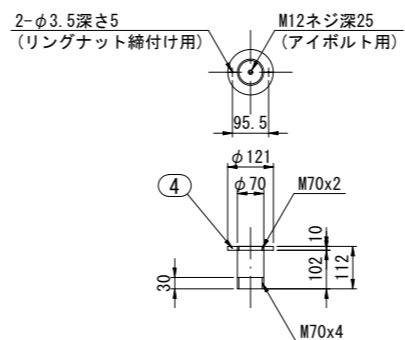
① 弾性荷重支持板 S=1:10



⑤ 可動ブロック S=1:10



③ シンボウ S=1:10



設計条件

反力 (kN)		A2	
最大反力	Rmax	510	
最大反力 (回転照査用)	Rmax2	460	
死荷重反力	RD	390	
照査荷重	RIL	60	
最大水平力	橋軸方向	RHeq1	51
	橋軸直角方向	RHeq2	70
上向きの地震力	Ru	-39	
変位量 (mm)			
照査荷重時の変位量	δcL	0.158	
回転変位量	δr	0.633	
水平変位量	常時・橋軸方向	$\Delta L1$	36
	地震時・橋軸方向	$\Delta Le1$	-
	地震時・橋軸直角方向	$\Delta Le2$	-
性能			
ゴムの種類及び呼び	材料・G	NR・G10	
圧縮ばね定数 (kN/mm)	Kv	380	
試験変位量	せん断ひずみ (%)	γS	-
	変位量 (mm)	UB	-

材料表 (1組当り)

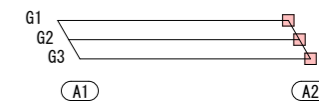
部番	部品名称	材質	個数	重量(kg)	備考
①	弾性荷重支持板	NR, SS400, SM490A	1	150.2	(平均)
②	上沓	SM490A, SUS316	1	33.5	
③	シンボウ	S45CN	1	3.4	
④	リングナット	S45CN	1	0.6	
⑤	可動ブロック	SM490A or SCW480N, PTFE	1	8.6	
⑥	アンカーボルト	SD345	4	4.3	
⑦	下カップラー	S45CN, EPDM	4	2.9	ゴムキャップ
⑧	桁取付ボルト, ワッシャー	強度区分 8.8	4	0.7	
⑨	アイボルト	SS400	-	-	M12
⑩	ゴム栓	EPDM	4	-	M12用
合計				204.2	(平均)

支承重量 A2 可動支承装置 G1 W=224.9kg、G2, G3 W=193.8kg

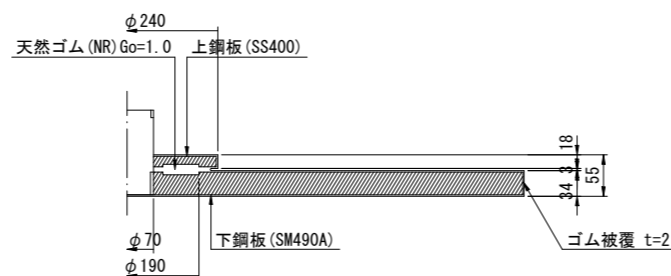
- ※1 道路橋支承便覧準拠。
- ※2 使用材料は道路橋支承便覧2.9に適合。
- ※3 部番を○で囲んだ部品は溶融亜鉛めっきとする。JIS H 8641 HDZT77、ボルト類はHDZT49とする。
- ※4 ゴム支承の重量は施工上の参考重量を示す。
- ※5 製作・施工に必要なアイボルト穴は適宜設けること。
- ※6 必要なアイボルト本数は協議して決定すること。
- ※7 アイボルト穴は用済み後穴埋めのこと。
- ※8 桁取付ボルト重量はL=100mmとして参考に計上する。
- ※9 シンボウ、リングナットはめっき後ねじ加工のこと。

⑧ 桁取付ボルト, ワッシャー M16 x L 強度区分 8.8

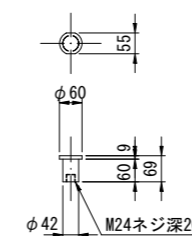
位置図



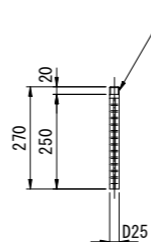
荷重支持板詳細図 S=1:5



⑦ 下カップラー S=1:10



⑥ アンカーボルト S=1:10



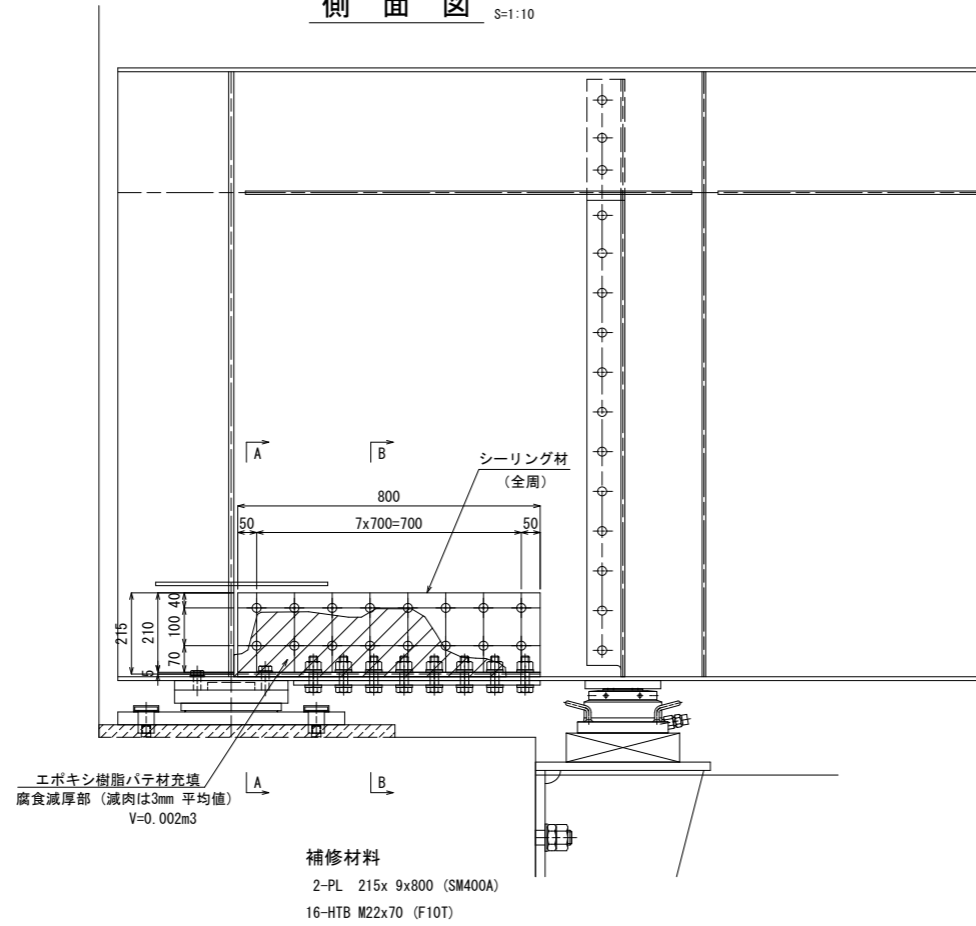
年度	令和8年度
工事名	令和7年度 大石川橋梁補修工事
路線名	市道 小友下向1号線
施工箇所	弘前市大字 貝沢 地内
図面名称	主桁補強工図
縮尺	図示(A1)
図面番号	17葉14

弘前市建設部土木課

主桁補強工図

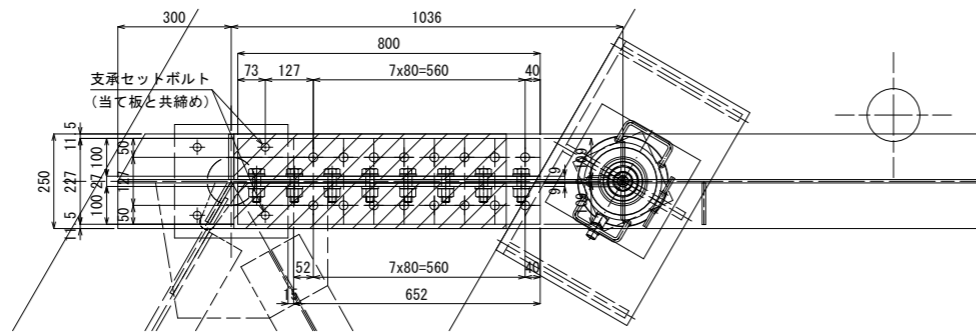
A1橋台上 G1桁

側面図 S=1:10



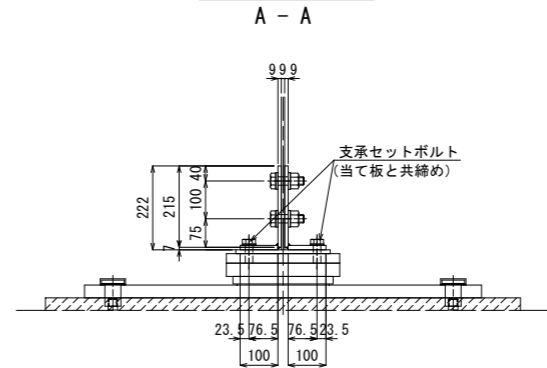
補修材料
 2-PL 215x 9x800 (SM400A)
 16-HTB M22x70 (F10T)

平面図 S=1:10

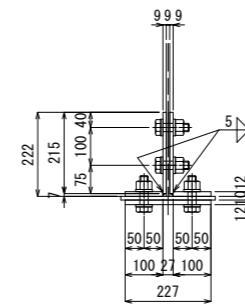


補修材料
 2-PL 100x12x800 (SM400A)
 1-PL 227x12x652 (SM400A)
 16-HTB M22x75 (F10T)

断面図 S=1:10



B - B

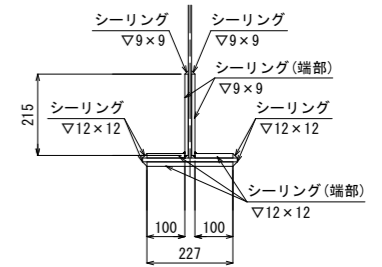


現場塗装面積 (高力ボルト連結部)

WEB A1=0.215 × 0.800 × 1面 × 2 × 1=0.34
 L-F1g A2=0.100 × 0.800 × 1面 × 2 × 1=0.16
 L-F1g A3=0.227 × 0.652 × 1面 × 1 × 1=0.15
 HTB頭 A4=6.70m²/1000本 × 32=0.21
 Σ A=0.86m²

シーリング材算出図 S=1:10

B - B



W1=0.800 × 2x0.009 × 0.009 × 1/2 × 1000=0.065
 W2=0.800 × 2x0.012 × 0.012 × 1/2 × 1000=0.115
 W3=0.652 × 2x0.012 × 0.012 × 1/2 × 1000=0.094
 W4=0.215 × 4x0.009 × 0.009 × 1/2 × 1000=0.035
 W5=0.010 × 4x0.012 × 0.012 × 1/2 × 1000=0.003
 W6=0.227 × 2x0.012 × 0.012 × 1/2 × 1000=0.033
 Σ W=0.345

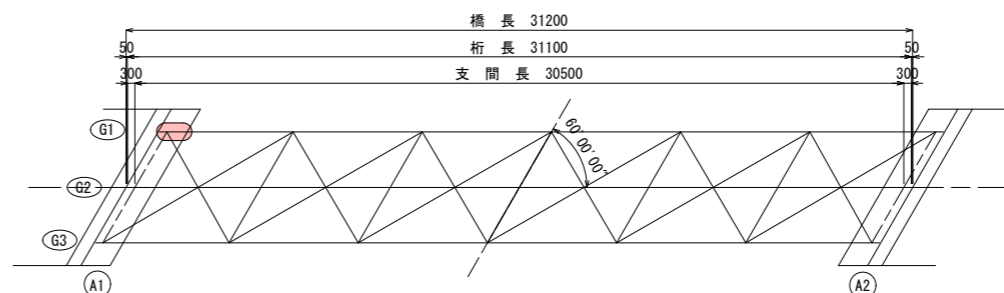
材料ロス率1.15
 W=0.345 × 1.15=0.397 ≈ 0.4L

高力ボルト連結部塗装仕様 F-11 塗装系

塗装工程	塗料名	塗装方法	使用量 (g/m ²)	目標膜厚 (μm)	塗装間隔
製鋼工場	1次 素地調整	プラスト処理 ISO Sa 2 1/2			4時間以内
	プライマー	無機ジンクリッチプライマー	スプレー	160 (15)	6ヶ月以内
製作工場	2次 素地調整	プラスト処理 ISO Sa 2 1/2			4時間以内
	防食下地	無機ジンクリッチペイント	スプレー	600 75	1年以内
現場	素地調整	動力工具処理 ISO St 3			4時間以内
	ミストコート	変性エポキシ樹脂塗料下塗 (はけ・ローラー)	スプレー	160 (130)	-
	下塗り	超厚膜形エポキシ樹脂塗料 (はけ・ローラー)	スプレー	1100 (500 × 2)	300
	中塗り	ふっ素樹脂塗料用 (はけ・ローラー)	スプレー	170 (140)	30
	上塗り	ふっ素樹脂塗料上塗 (はけ・ローラー)	スプレー	140 (120)	25

- 橋体工塗装仕様は、鋼道橋補修便覧(平成26年3月)に準拠し表のとおりとする。
- プライマーの膜厚は総合膜厚に加えない。
- 製鋼工場におけるプライマーは膜厚にて管理する。
- 母材と添接板の接触面は製作工場の無機ジンクリッチペイントまで塗布する。
- 超厚膜形エポキシ樹脂塗料を適用することで防食性の向上と工期短縮を図ることができるが、一般面と比べて仕上り外観は劣る。
- 防せい処理ボルトの場合は、添接板も含め高力ボルト頭部にミストコートから塗装する。
- 防せい処理ボルトを使用しない場合は、高力ボルト頭部に素地調整後、有機ジンクリッチペイント240g/㎡×2回(はけ塗り、塗装間隔1日~10日)を塗装した後、添接板も含めミストコートから塗装する。

位置図



特記事項

- 現場施工・製作にあたっては現地計測を行い、寸法の決定を行うこと。
- 特記なきボルト孔明け径は全てφ24.5とする。
- 減肉部補修
 - 1) 金属パテ材を充填し、補修を行う。
 - 2) ボルト接合面は不陸修正を行うこと。
- 上部工塗装の前に当て板補強を行うこと。塗装面積増加については、本当て板補強では、ボルトの増分のみを考慮する。
- プラスト時に大きな減肉や欠損が生じた場合は、当て板を行うこと。
- 現場孔明けを先行し、その後に金属パテ材やボルト締めを行うこと。

年度	令和8年度
工事名	令和7年度 大石川橋橋梁補修工事
路線名	市道 小友下向1号線
施工箇所	弘前市大字 貝沢 地内
図面名称	橋梁塗装工図
縮尺	図示(A1)
図面番号	17葉15

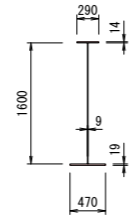
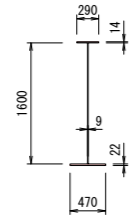
弘前市建設部土木課

橋梁塗装工図

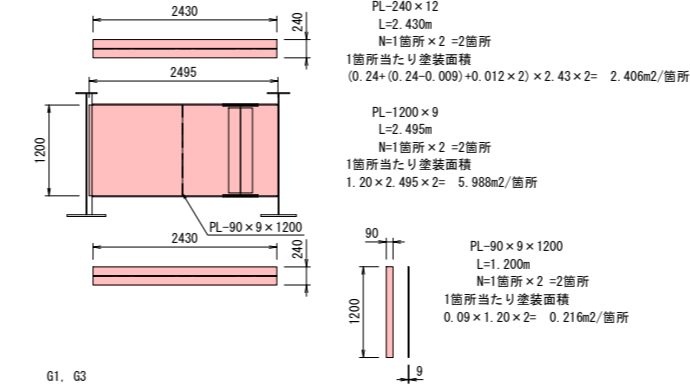
主 桁 S=1:50

G2
PL-290×14 (上フランジ)
PL-1600×9 (ウエブ)
PL-470×22 (下フランジ)
L=2.235m
N=2箇所
1m当たり塗装面積
(0.29-0.009)+1.60×2+(0.47-0.009)+0.47+0.022×2= 4.456m²/m

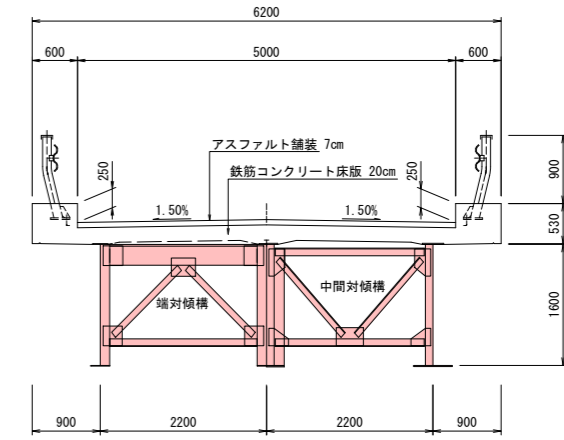
G2
PL-290×14 (上フランジ)
PL-1600×9 (ウエブ)
PL-470×19 (下フランジ)
L=1.530m
N=1箇所
1m当たり塗装面積
(0.29-0.009)+1.60×2+(0.47-0.009)+0.47+0.019×2= 4.450m²/m



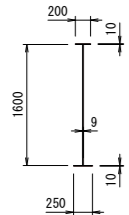
分配横桁 S=1:50



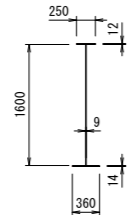
断面図 S=1:50



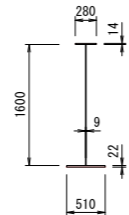
G1, G2, G3
PL-200×10 (上フランジ)
PL-1600×9 (ウエブ)
PL-250×10 (下フランジ)
L=3.550m
N=2箇所×3=6箇所
1m当たり塗装面積
(0.20-0.009)+1.60×2+(0.25-0.009)+0.25+0.01×2= 3.902m²/m



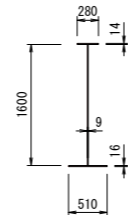
G1, G2, G3
PL-250×12 (上フランジ)
PL-1600×9 (ウエブ)
PL-360×14 (下フランジ)
L=4.000m
N=2箇所×3=6箇所
1m当たり塗装面積
(0.25-0.009)+1.60×2+(0.36-0.009)+0.36+0.014×2= 4.180m²/m



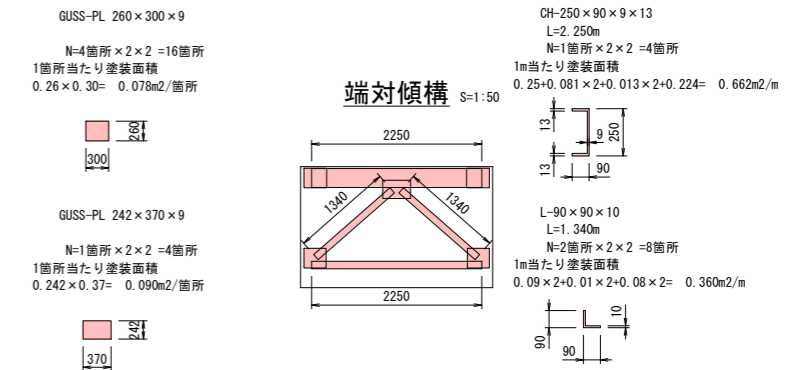
G1, G3
PL-280×14 (上フランジ)
PL-1600×9 (ウエブ)
PL-510×22 (下フランジ)
L=2.235m
N=2箇所×2=4箇所
1m当たり塗装面積
(0.28-0.009)+1.60×2+(0.51-0.009)+0.51+0.022×2= 4.526m²/m



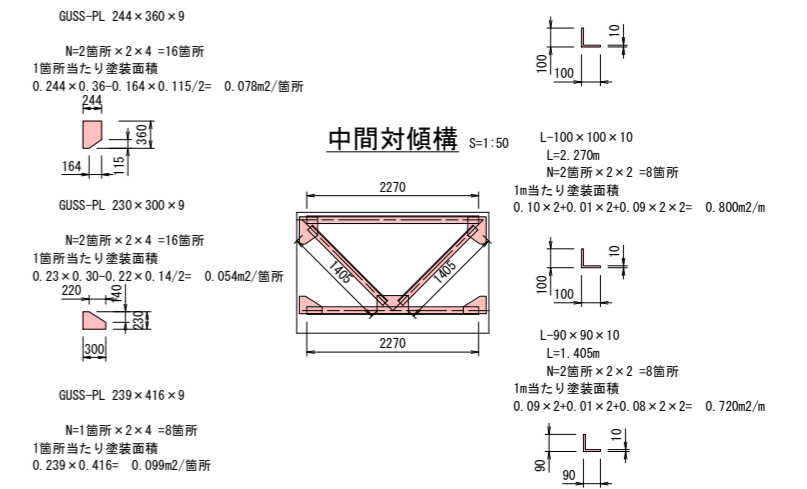
G1, G3
PL-280×14 (上フランジ)
PL-1600×9 (ウエブ)
PL-510×16 (下フランジ)
L=1.530m
N=1箇所×2=2箇所
1m当たり塗装面積
(0.28-0.009)+1.60×2+(0.51-0.009)+0.51+0.016×2= 4.514m²/m



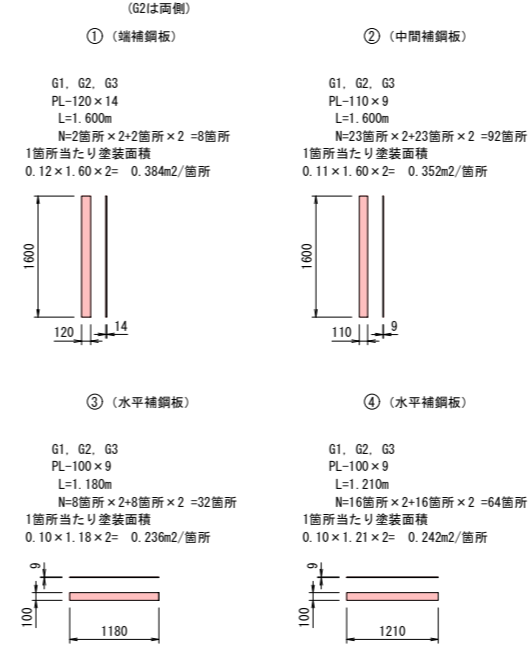
端対傾構 S=1:50



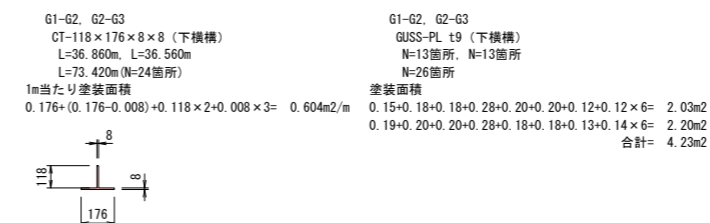
中間対傾構 S=1:50



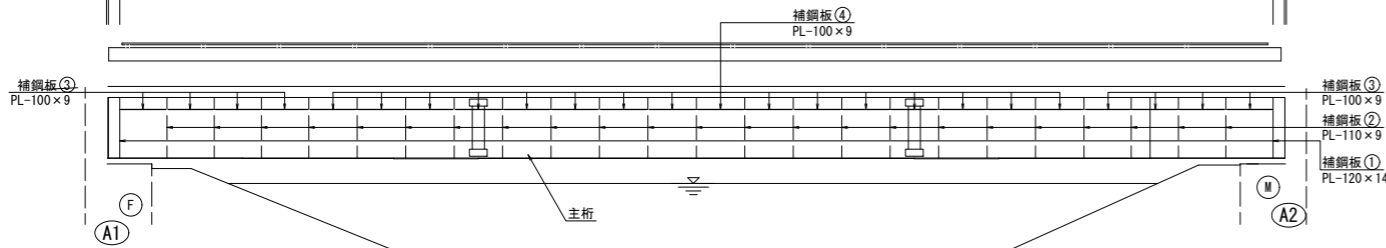
補 鋼 板 S=1:50



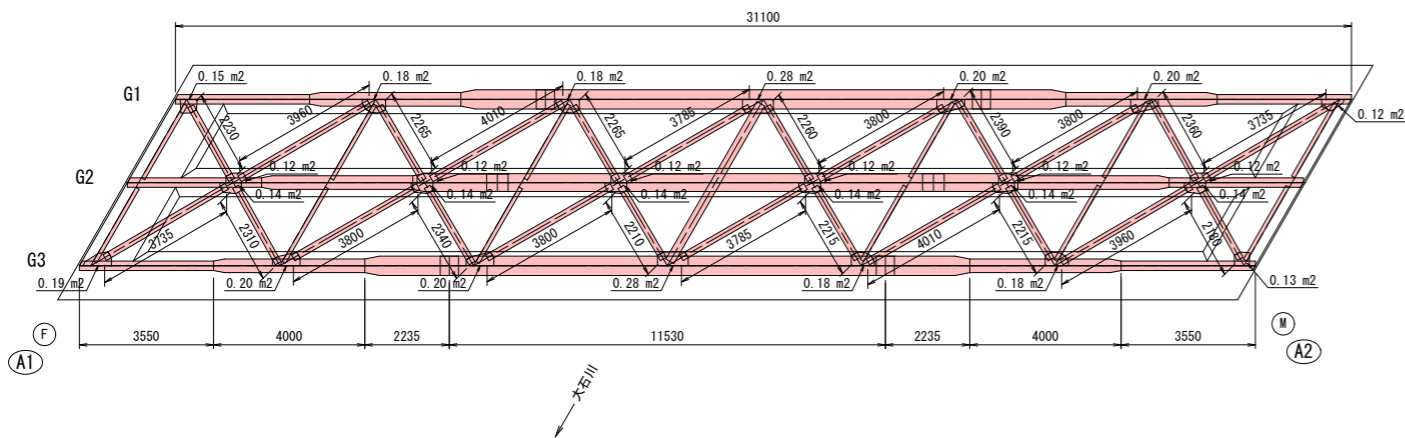
下 横 構 S=1:50



橋長 31200
桁長 31100
支間長 30500



平面図 (主桁・床組) S=1:100



注意事項 既存塗膜に鉛の含有が確認されているため法令等を守ります。

Rc-1 塗装系 (スプレー) ^{※1}			
塗装工程	塗料名	使用量 (kg/m ²)	塗装期間
素地調整	1種相当 (プラスト工法) ^{※2}		4時間以内
防食下地	有機ジンクリッチペイント	600	
下塗	弱溶剤型炭化エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日~10日
下塗	弱溶剤型炭化エポキシ樹脂塗料中塗	240	1日~10日
中塗	弱溶剤型炭化エポキシ樹脂塗料中塗	170	1日~10日
上塗	弱溶剤型炭化エポキシ樹脂塗料上塗	140	1日~10日

施工数量			
位 置	数量 (m ²)	摘 要	
鋼製桁	564.1		

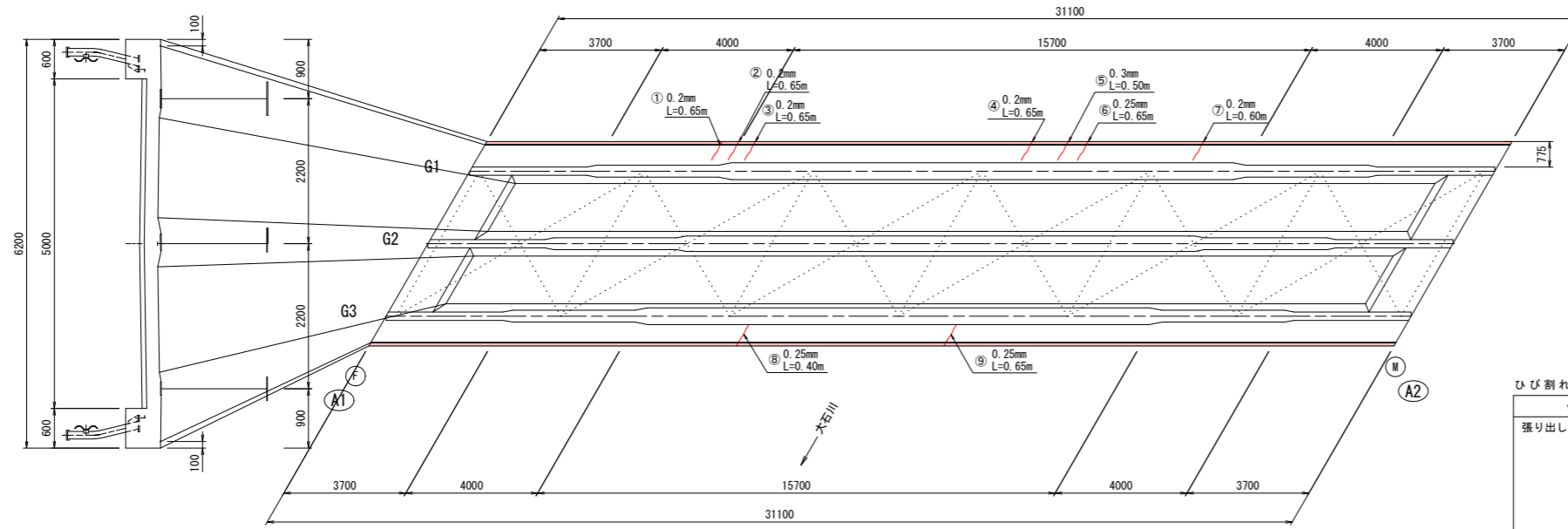
※1: 原則はスプレー塗装とするが、発注者との協議の上では、ローラーに変更もできる。変更した際の
各使用量については「鋼道橋防食規程」表-11.5.5 各塗料の標準使用量と標準厚による。
※2: 現場の施工条件に応じて塗膜厚を別途取り決める場合もある。
※3: 既存塗膜の除去は、プラスト工法又は動力工具等により素地調整工程1種相当を確保するものとし
除去量は150 Sa²/1とす。(準拠図書「鋼道橋防食規程」)
プラスト作業時は、塗膜片等が外部に飛散しないよう防護を行い、労働安全衛生法(関係法令)を遵守し
環境保全と作業環境および安全確保と騒音に配慮した上で、適正に作業を行うこと。

特記事項
・図中詳細寸法等は、現地検測のうえ決定すること。
・カセットプレート塗装面積は、鋼材の接続(重なり)を考慮して片側の計上としている。

年度	令和8年度
工事名	令和7年度 大石川橋梁補修工事
路線名	市道 小友下向1号線
施工箇所	弘前市大字 貝沢 地内
図面名称	床版補修工及び下部工補修工図
縮尺	図示(A1)
図面番号	17葉16

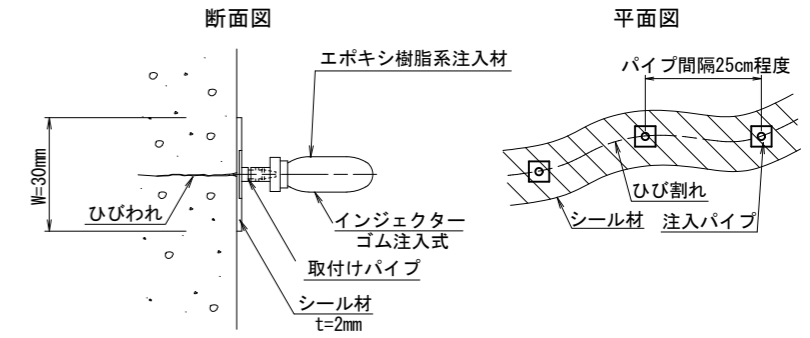
床版補修工及び下部工補修工図

平面図 (下面) S=1:100



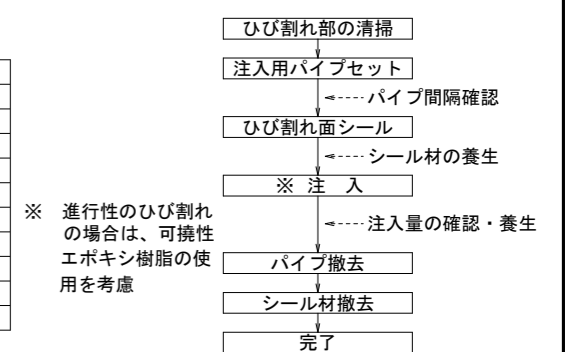
ひび割れ注入工詳細図

(0.2mm ≤ ひび割れ幅 < 1.0mm)
低圧注入工法



- (特記事項)
 1. 図中、詳細寸法等は現地計測のうえ決定すること。
 2. ひび割れ注入工の際、既設コンクリートの脆弱箇所はリペアメントにより断面修復を行う。
 3. 表記以外の損傷箇所が確認された場合は、補修について協議を行い判定する。
 4. ひび割れ深さは、ひび割れ幅の200倍(推定)とする。

ひび割れ注入工フロー



ひび割れ補修工 施工数量

位置	幅(mm)	延長(m)	摘要
張り出し床版 G1 ①	0.20	0.65	低圧注入工法
" ②	0.20	0.65	"
" ③	0.20	0.65	"
" ④	0.20	0.65	"
" ⑤	0.30	0.50	"
" ⑥	0.25	0.65	"
" ⑦	0.20	0.60	"
G3 ⑧	0.25	0.40	"
" ⑨	0.25	0.65	"
合計	2.05	5.40	

A1 橋台 S=1:100

A2 橋台 S=1:100

下流側側面図

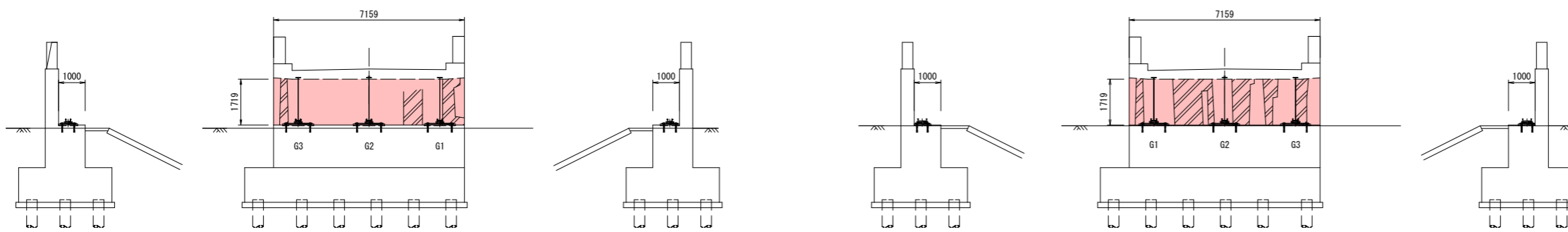
正面図

上流側側面図

下流側側面図

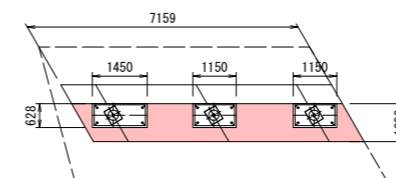
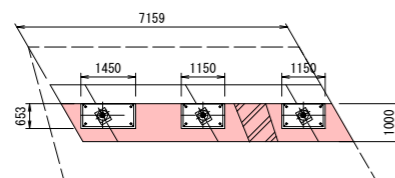
正面図

上流側側面図



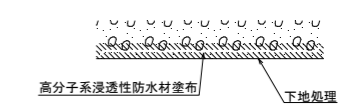
平面図

平面図



表面含浸工詳細図

S=1:10



- <特記事項>
 ※1 既設コンクリートの塗布面は、下地処理を行い汚れや付着物を除去する。
 ※2 清掃後、0.2mm以上のひび割れ等脆弱部が確認できた場合別途補修すること。
 ※3 施工時は周囲に飛散しないよう、作業完了後(24時間)は降雨にさらされないよう養生を行う。
 ※4 詳細寸法等は現地再検測の上決定すること。

表面含浸工

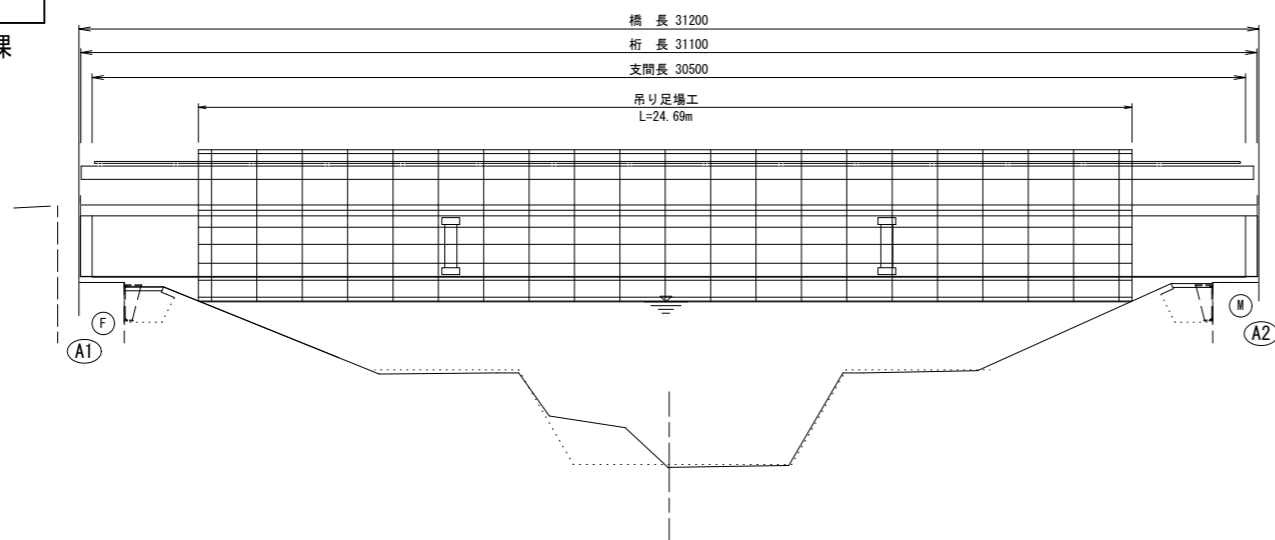
床版 (G1)	0.100 × 31.10 = 3.11m ²
床版 (G2)	0.100 × 31.10 = 3.11m ²
胸壁 (A1)	7.159 × 1.719 = 12.31m ²
胸壁 (A2)	7.159 × 1.719 = 12.31m ²
橋座 (A1)	7.159 × 1.000 - (1.45 + 1.15 + 1.15) × 0.653 = 4.71m ²
橋座 (A2)	7.159 × 1.000 - (1.45 + 1.15 + 1.15) × 0.628 = 4.80m ²
合計	40.35m ²

年度	令和8年度
工事名	令和7年度 大石川橋補修工事
路線名	市道 小友下向1号線
施工箇所	弘前市大字 貝沢 地内
図面名称	橋梁足場工参考図
縮尺	図示(A1)
図面番号	17葉17

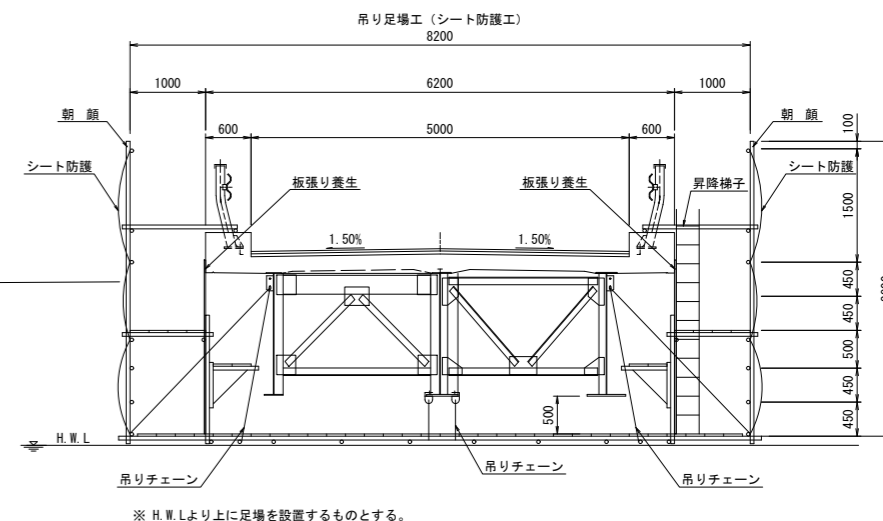
橋梁足場工参考図

弘前市建設部土木課

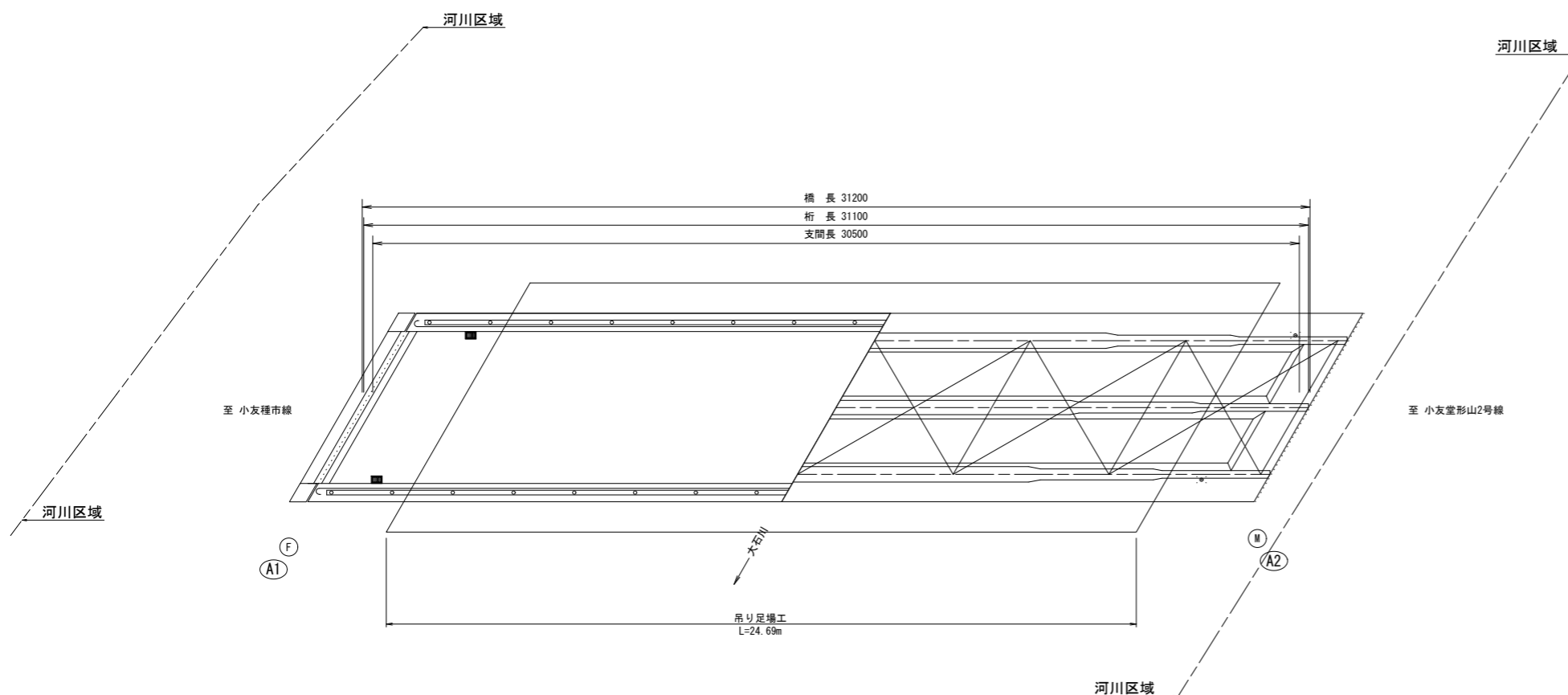
側面図 S=1:100



断面図 S=1:50



平面図 S=1:100



(特記事項)

・ 図中詳細寸法等は、現地検測のうえ決定すること。